跡見学園短期大学図書館所蔵

# 異種百人一首目録

篠崎和子

## はじめに

本学で「小倉百人一首」関係の資料集収が、前図書館長伊藤嘉夫教授の下で始められてすでに数年になる。一部異種百人一首を含めて架蔵本は六〇〇点を超えるほどになった。このうち「小倉」系は資料も多く未整理の段階にあるので、今回は「異種」系二二八点を目録として掲載することにした。いわゆる「異種」の範囲はかなり広い。既刊の書目には厳密な意味で百人一首の形をとらないものもあげられている。この目録作成についてもその点を考慮した。作成に当り、伊藤嘉夫教授には、分類をはじめ諸般の御指導並びに校閲を仰いだ。なお近世文学ご担当の坂田勝教授　百人一首ご担当の中島悦次・田尻嘉信両教授に御教示をいただいた。深く感謝申し上げます。

## 凡例

一、目録の排列

1小倉百人一首に擬したもの

2道歌・教訓歌

3狂歌

4歌誹・俳句

5漢詩・英訳・その他

各項目ごとに成立年代順にして一連番号を付けた（同一の写・板についてはその書歴による）

一、書名は巻頭・外題・見返し・序文　又は参考書誌等によった。不明のものは仮書名をあげ〔　〕に入れた。又別名あるものはその旨を印し、他書によったものはその出所を略号を以て記した。

一、書物の体載は書名の下に左の如く出し、原寸はcmで示した。

和装本――┬写本――写
　　├板本――和
　　└活字本――和活

洋装本――洋

なお、とくに巻・綴・折の略号で巻子本・綴葉本・折本の場合は区別して示した。

一、〔著者・撰者・編者名〕明らかなもののみ出し、説あるものは〔　〕に入れた。

一、〔見返し・扉〕特に重要であるものをあげ、他は略した。

一、序・跋の日附署名は架蔵本通りに記した。

一、〔刊年・等〕刊年は明らかなものを記し、西暦を入れ、他を未詳とした。他書によるものはこれを記し、出所を明らかにした。刊行書肆多数あるものは最後の書肆のみをあげ、他を略した。丁数は柱の丁付と異る場合には実数を以て示した。

一、〔備考〕書目の大要を示し序、跋にある必要事項をあげた。翻刻あるものは㊟、参考になるものは㊂を以て示した。

一、本文中の参考文献は次の略号で示した。

| | | |
|---|---|---|
| 国書総目録 | 岩波書店 | （国総） |
| 大日本歌書綜覧 | 福井久蔵 | （福井） |
| 百人一首類聚目録 | 岸本稲巌 | （岸本） |
| 異種百人一首総目録 | 宮武外骨 | （宮武） |
| 狂歌書目集成 | 菅竹甫 | （菅） |
| 近世狂歌史 | 菅竹甫 | （菅近） |
| 増訂慶長以来書賈集覧 | 井上和雄 | （書賈） |

## 1、小倉百人一首に擬したもの

**一 後撰百人一首**　和一冊　二六・二×一八・二

〔別名〕続百人一首〔撰者〕二条良基（伝）

〔序〕　寛政申のとし霜月中の二日〔寛政十二年（一八〇〇）〕おほきみつの位さた直しるす（富小路貞直）〔序〕無記名〔刊年・等〕文化竜集丁卯〔文化四年（一八〇七）〕夏新鐫　大坂書肆　多田勘兵衛等三軒　巻首五丁　本文五十丁

〔頭尾歌〕　村上天皇「影みえて汀にたてる白菊はおられぬなみの花かとぞみる」近衛関白左大臣「をのづから都にかよふ夢をさへまたおどろかす峯の松風」

〔備考〕　百人各一首と肖像　頭書には歌意とそれにみあう絵をのせる　筒井尚堂書伯手沢　淵上旭江画宗縮図　彫生　浪華　藤木金兵衛　巻末に色刷で六歌仙の歌と肖像をかかげる　(活)袖珍文庫第二十三編十三種百人一首所収

二　**新百人一首**　巻写一軸　三〇×七四〇

〔別名〕　常徳院撰和歌集（国総）〔撰者〕足利義尚〔奥書〕二品親王良尚書花押（曼殊院宮）

〔頭尾歌〕　文武天皇「竜田河もみちみたれてなかるめりわたらばにしき中やたえなむ」花園院「芦原やみたれしくにの風をかへてたみの草葉もいまなひくなり」

〔備考〕　百人各一首　寛文頃写？極札あり

三　**新百人一首**　写一冊　三六、九×三〇、三

〔撰者〕　足利義尚〔題箋〕備前新百人一首

〔丁数〕　四十丁〔頭尾歌〕二に同じ

〔備考〕　本文薄葉料紙を用い　能筆な散らし書き　江戸初期の書写？　奥書なく筆者未詳

四　**新百人一首**　和二冊上・下　三六、四×一八、三

〔別名〕〔撰者〕〔頭尾歌〕二に同じ〔筆者〕中院通村〔奥書〕文明十五年（一四八三）神無月下四日ともしひのもとにて筆をはをはりぬ　沙門判

本云是は常徳院殿御作撰云々跋半聖護院の准后道興被遊之由云々以左中弁兼秀本享禄二年（一五二九）十三日書写之終功畢　永禄九年（一五六六）十二月二日書之〔刊年・等〕這新百人一首以中院内大臣通村公芳翰令刊行之者也　干時明暦第三天丁酉（一六五七）臘月中旬〔京〕谷岡七左衛門板行

上巻　二十五丁　下巻二十六丁より五十二丁

〔備考〕　百人各一首と肖像をのせる(活)続群書類従十四輯上　袖珍文庫第二十三編十三種百人一首所収

五　**新百人一首**　和一冊　三六、六×一八、八

〔撰者〕〔筆者〕〔頭尾歌〕二に同じ

〔跋〕　春海〔刊年等〕天保八丁酉年（一八三七）十月　江戸　北島順四郎等七軒　五十一丁

〔備考〕　百人各一首を色紙の書式を以て書く　上部ところどころに注をのせる

六　**新百人一首**　和一冊　三六、四×一八、三

〔撰者〕〔筆者〕〔頭尾歌〕二に同じ〔跋〕享和二年（一八〇二）しはす　橘千蔭・春海〔刊年・等〕刊年未詳　江戸　万笈堂　英平吉　五十四丁

〔備考〕　各丁周囲に枠を入れ　上部欄外ところどころに注をのせる　巻末　英平吉蔵板法帖目録を付ける

七　**新百人一首**　和一冊　三六、四×一七、八

六に同じ〔見返し〕新百人一首　橘千蔭翁書　江戸書林　本石町十軒店　万笈堂　英平吉とある　但し周囲に枠がない

八　**新百人一首**　和一冊　三五、三×一八、五

五の後刷本〔跋〕春海〔刊年・等〕刊年未詳〔明治？〕東京　金花堂　中村佐助

九　**橘千蔭翁真筆新百人一首**　和一冊　三六・五×一八・一

〔撰者〕〔筆者〕〔頭尾歌〕二に同じ〔序〕春海〔刊年・等〕明治廿七年（一八九四）三月廿五日求版　同年四月二十日再版発行　東京　博文館　五十一丁

〔備考〕　各丁周囲に枠があり　見返しに「仮名習字帖新百人一首」とある

一〇　**武家百人一首**（草稿本）　綴写一帖　一六、六×一五、五

〔撰者〕榊原忠次（伝）〔跋〕　万治庚子仲冬〔万治三年（一六六〇）〕〔丁数〕十九丁

〔頭尾歌〕　経基王「雲井なる人を遥かにおもふにはわかこころさへ空にこそなれ」法住院贈太政大臣義高「月みはとちきりやをきしさほしかのくる秋ことにつまこひの声」

〔備考〕平貞俊「玉のをのたえぬばかりに苦しきはひくてによらぬおもひなりけり」の歌があり　百一首　但し「此哥可略」の朱書入がある　刊本にはこの歌はない　猶万治三年には榊原忠次は生れていない
（伊藤教授の説による）

一一 **武家百人一首**　巻写一軸　三三、五×五、九〇
〔著者〕榊原忠次（伝）〔奥書〕万治三年（一六六〇）〔備考〕江戸初期写？

一二 **武家百人一首**　折写一帖　一九・五×八・五
〔撰者〕榊原忠次（伝）〔序〕無記名
〔備考〕筆者　筆録年次未詳　江戸期末？
本文62「いにしへに」右兵衛源直冬の歌まで　26「夕ぐれは」鎌倉右大臣の歌を欠く　六十一首の零本

一三 **武家百人一首**　和一冊　二六、三×一九
〔撰者〕榊原忠次(伝)〔跋〕無記名〔刊年・等〕寛文六丙午歳（一六六六）初冬吉辰
〔京〕谷岡七左衛門板行　五十一丁
〔頭尾歌〕一〇に同じ
〔備考〕百人各一首と肖像　跋には写本にある年号を欠く　「のど」に武家とある
㊟修養文庫明教和歌集（国総）

一四 **武家百人一首**　和一冊　二五・七×一八・三
十三の後刷本　巻末に「元禄十六歳（一七〇三）六月上旬　林正五郎板」とある　刊年未詳　京都　菊屋喜兵衛板行

一五 今井氏書 **武家百人一首溪雲抄**　写一冊　二五・七×一七・九
武家百人一首（榊原忠次撰伝）の注釈書「直澄曰く」等の朱書入多し　三十八丁

一六 **武備百人一首**　写一冊　二七・二×一九・五
〔撰者〕六角義実〔丁数〕十四丁〔巻頭〕天文廿年（一五五一）三月廿二日於二江州観音城武備百人一首の和歌　判者なし其将の任レ心用二武備一
〔頭尾歌〕一以貫レ之　将軍義輝公「音もなく香もなく道のいたれるはたゝそのまゝの有明の月」天下泰平　管領義実「いにしへの聖の御代に立帰り宮もわかやもにきはひにけり」
〔備考〕百人の歌　管領義実の歌は前後二回ある　巻頭江源武鑑書抜に「屋形将軍家を為レ賞武備の百首を始給ふ彼哥の題は儒学兵書の内要とする所ノ語武具等に至まてを題と定め哥のから其道によくかなひたるをよしとす寔にその作者に依ておかしき哥おほし末世の物語二百首ともに日記にのす」とある　又巻末に「将軍家甚興に入給ふ則御所持あるへしとて右の短冊ともを召上らる」「連衆者　畠山家　細川家　武田家　朝倉家　長岡家　右五人の外は皆江州の面々屋形の族或旗頭等又は長臣両執権其外城主の家礼等なり」とある

一七 **勇猛百人一首**　和一冊　一八×二・八
〔撰者〕源満昭〔画〕芳廉〔柱〕勇猛百人
〔刊年・等〕刊年未詳　安永七(一七七八)刊(国総)嘉永七甲寅（一八五四）刊（岸本）東都　海寿堂　五十丁
〔頭尾歌〕六孫王経基公「雲井なる人をはるかにおもふには我心さへ空にこそなれ」法住院贈太政大臣源義高「月見はと契りやおきし小男鹿の来る秋ことに妻乞の声」
〔備考〕百人各一首と肖像　上欄に歌意とこれに見合う小画をそえる

一八 **英雄武者歌々見**　和一冊　一七・七×二・七
〔編者〕未詳〔柱〕勇猛百人〔刊年・等〕刊年未詳　三十八丁（但し最後の丁付四十五丁　落丁本）
〔備考〕内容は一七勇猛百人一首に同じ　但し絵は多少簡略　表紙に色刷の絵がある。

一九 **新撰武家百人一首**　和活一冊　三・七×二五・一
〔著者〕伊達吉村〔題箋〕武家新歌仙・新撰武家百人一首　仙台文庫叢書　第六集
〔扉〕従四位上左近衛権中将伊達吉村朝臣著
武家新歌仙　新撰武家百人一首　附武蔵より領国に帰る道の記あしの下根〔柱〕新撰武家百人一首　仙台文庫叢書〔刊年・等〕明治二十八年（一八九五）九月五日　東京府　作並清亮　売捌所　仙台市　伊勢斎助　十二丁（全三十丁の中）
〔頭尾歌〕大猷院贈大政大臣「田子の浦に汐汲海士の袖ぬれてほすまもしらぬ身のわさそうき」文昭院贈大政大臣「色かへぬときはのまつの影そひて千世にや千世にすめるいけ水」

〔備考〕徳川初期の武家百人の歌各一首終りに「新撰武家百人一首並歌仙作者」を付する　明治二十八年四月　仙台　作並清亮　蘆立文助　同校とある　武家新歌仙と合綴㊟袖珍文庫　第二十三編十三種百人一首所収

三〇　**女房百人一首**　和一冊　一九・一×三

〔撰者〕未詳〔筆〕久我博高〔刊年・等〕安永九年庚子（一七八〇）正月　彫刻　川崎平六・書林　高橋平助等三軒　二十一丁

〔頭尾歌〕衣通姫允恭天皇女「わがせこがくべきよひとてさゝがにのくものふるまひかねてしるしも」染殿后太政大臣良房公女文徳天皇后「まつひともなきものゆゑにうぐひすのなきつるはなををりてげるかな」

〔備考〕百人各一首　挿絵がある　跋に「右女房百人一首。撰者の名きこえざれど。源博高郷正三位久我家の筆したまふを。某なる家にをさめられしを乞て。小倉色紙のあとにつゞき。女児のよみならひたまはん料に。絵をまじへて梓に恵り。世におほやけにせまくす。されと撰中の作者。時代をかうがへんに。いとあとさきなるも見ゆれど。わたくしにそのさゞせんことのかしこければ。かの郷の筆のまに〳〵。ここにうつし侍りぬ。見ん人これが次第をいぶかりたまふなからむことをねがふたまふになん」浪華の書林　某等まうす」とある

三一　**頭書訓読源氏百人一首湖月抄**　和一冊　三五・二×八・一

〔著者〕黒沢翁満〔見返し〕源氏百人一首　黒沢翁満大人著　江戸書林・千鐘房・金花堂・玉山堂合刻〔柱〕源氏一首〔序〕天保の九とせ葉月のいつかの日　橘守部・天保の十まり一とせといふとしやよひはしめつかた　すかはらの夏蔭しるす　天保十一年十月　藤原定美〔刊年・等〕天保十年己亥（一八三九）十二月松軒田靖書　椿斎清福画　金花書堂梓　巻首七丁　総論八丁　本文六十二丁

〔頭尾歌〕桐壺帝「いときなき初もとゆひに長き世を契るこゝろはむすびこめつや」小野尼「うつしうゑておもひみだれぬ女郎花うき世をそむく草の庵に」

〔備考〕源氏物語の中一人につき歌一首づつを撰ぶ　その数百廿三人　肖像を入れ頭書に各人物の略伝及び歌の略注をのせる㊟袖珍文庫第二十三編十三種百人一首所収

三二　**源氏百人一首**　二六・二×八・一

二一源氏物語湖月抄に同じ〔刊年・等〕天保十二辛丑年（一八四一）正月　発行書林〔江戸〕山城屋佐兵衛等八軒　巻首七丁　総論八丁　本文六十二丁　書目二丁（武蔵国埼玉郡忍藩　黒沢翁満先生著述書目）

三三　**英雄百人一首**　和一冊　一八・三×三・一

〔別名〕英雄百首〔序〕弘化二乙巳（一八四五）正月吉日　自序〔刊年・等〕天保十四癸卯年十月稿成　同十五甲辰年（一八四四）十月発市　東都書肆山口屋藤兵衛版　五十五枚最後の丁付六十丁

〔頭尾歌〕素盞嗚尊「八雲たついづも八重がきつまごめにやへがきつくるその八重がきを」常徳院義尚「今日ばかりくもれあふみの鏡山旅のやつれの影の見ゆるに」

〔備考〕百人の歌各一首と肖像　画工　貞秀兼次郎　上欄に小伝・逸話をのせ　巻首に「軍器略抄」をおく

三四　**英雄百人一首**　和一冊　一八・三×三・三

〔輯者〕〔柱〕〔頭尾歌〕〔画工〕等　二三に同じ〔見返し〕英雄百人一首　緑亭川柳著　玉蘭斎貞秀画　乙巳春新刊　戊申秋再刻錦耕堂版〔序〕嘉永元戊申年九月吉日再版自序〔刊年・等〕嘉永元年戊申仲冬（一八四八）再版　江戸　山口屋藤兵衛等十七軒

三五　**続英雄百人一首**　和一冊　一八・一×三・一

〔輯者〕緑亭川柳〔画工〕前北斎卍老人・一勇斎国芳・玉蘭斎貞秀・柳川重信・一陽斎豊国〔柱〕続英雄百首〔序〕嘉永己酉孟春　武陽　金水処士　関口東作識　嘉永二酉の春　自序〔刊年・等〕干時嘉永二年己酉（一八四九）正月癸版　東都書肆　錦耕堂山口屋藤兵衛梓　巻首七丁　本文五十丁他一丁

〔頭尾歌〕伊予守頼義「都には花の名ごりをとめおきてけふした芝につたふ白雪」豊臣秀吉公「吉野山誰とむるとはなけれども

今宵も花の蔭にやどらん」
〔備考〕英雄百人一首の拾遺　百人各一首と肖像をかかげ上欄に略伝をのせる

二六 **列女百人一首**　和一冊　一八・一×二三・二
〔輯者〕緑亭川柳〔柱〕列女百首〔序〕弘化四年丁未春新鐫　自序〔刊年・等〕弘化四丁未年（一八四七）正月発市　東都書肆山口屋藤兵衛板　六十丁
〔頭尾歌〕平郡千左登「旅人のやどりせん野に霜ふらばわが子はぐくめあまの鶴むら」玉瀾「常盤なる松も色そふ時を得て幾千代春の栄をかみん」
〔備考〕列女百人の歌各一首と肖像　細画葛飾卍老人・肖像・一陽斎豊国　上欄に小伝　逸話をかかげる　巻首に烏丸家御撰「職人三十六歌仙」「やまとぶみの詞」などをのせる　㊟袖珍文庫第二十三編十三種百人一首・女学双書（国総）

二七 **秀雅百人一首**　和一冊　一八・一×二三・二
〔輯者〕緑亭川柳〔画工〕前北斎卍老人・一勇斎国芳・柳川重信・渓斎英泉・一陽斎豊国〔柱〕秀雅百首〔序〕弘化五年戊申之正月　武南　金水漁人関口秋実題・弘化五戊申孟春吉旦　自序〔刊年・等〕干時弘化五戊申年（一八四八）正月発兌　東都書肆山口屋藤兵衛梓　庄二丁　口絵五丁　本文五十丁
〔備考〕祝部清風「ひと声をこゝにをしむな時鳥外の初音はけふならずとも」香川景樹「高砂の松はあらしも聞えけり君が千歳のかげぞ長閑き」
〔備考〕百人各一首と肖像　上欄に各略伝をのせる

二八 **和漢英雄百人一首**　和一冊　一八・一×二三・一
〔編者〕柳亭種秀（笠亭仙果）〔柱〕忠孝（口絵個所には忠孝百人とある）〔序〕蝌斗子〔刊年・等〕嘉永二年己酉（一八四九）正月　山口屋藤兵衛等十三軒　口絵（色刷）三丁　本文四十九丁
〔頭尾歌〕神武天皇「神を祭りあたを払ひて大倭国の真中に宮はじめます」深草元政法師「鷲の山みねの月影深草や末野の鶉かりにみえけむ」
〔備考〕九十八人の忠・孝の歌各一首と肖像　玉蘭斎貞秀秀画図　上欄に各人の略伝をかかげる　口絵に清政朝臣・沛県之刘邦・日本鉄炮の始（色刷）をのせる

二九 **和漢忠孝百人一首**　和一冊　一八・一×二一・九
〔作者〕笠亭仙果〔柱〕忠孝〔刊年・等〕嘉永六癸丑春正月（一八五三）東都書林竹屋次郎吉等十四軒　三十七枚（最後の丁付五十五丁）
〔頭尾歌〕神武天皇「神を祭りあたを払ひて大倭国の真中に宮はじめます」国性爺「日本の神の御霊もそひけらし我国腹なる漢のますらを」
〔備考〕忠孝の歌七十四首と肖像　上欄に各略伝をのせる　表紙に色刷絵があり　右下に仙果作　貞秀画とある　左上に「和漢忠孝百人一首」と刷られてある　奥に「此書也賈人急ニ癸兌ニ不レ経ニ校訂ニ而命ニ彫刻ニ々成之後見レ之筆工杜撰錯ニ用字法格ニ者不レ遑ニ枚挙ニ雖レ然細小文字難ニ改刻ニ徒嘆ニ一口気ニ而已　仙果再記」との抗議文がある

三〇 **義烈百人一首**　和一冊　一八・一×二三
〔別名〕義列百首（国総）〔輯者〕緑亭川柳〔画工〕前北斎卍老人・一勇斎国芳・一猛斎芳虎・玉蘭斎貞秀・一陽斎豊国〔柱〕義列百首〔序〕嘉永二己酉冬　尾陽　文嶺原田記撰・嘉永三年春　自序〔跋〕嘉永二年冬（一八四九）梅屋〔刊年・等〕嘉永三年庚戌（一八五〇）正月癸兌　東都書肆錦耕堂　山口屋藤兵衛梓　序二丁　口絵五丁　本文五十丁　跋一丁
〔頭尾歌〕源実朝公「君が代はなほしもつきじ住吉の松はもゝたびおひかはるとも」加藤清正「としくに盛久き桜花尽ぬ契りも妹と背の山」
〔備考〕百人各一首と肖像　上欄に小伝逸話をのせる

三一 **女百人一首**　和一冊　一三×一八・一
〔扉〕女百人一首　裏にうはふみはふちはらのため家郷　題字は二条関白かねもと公作者の名は西郊備前守さねのふの朝臣　歌は冷泉為すけの郷　此人々の書を集字にす
〔刊年・等〕嘉永四辛亥（一八五一）初春彫工　日本橋　飯田源三　製冊発行　京橋

仲屋徳兵衛等二軒　五十一丁
〔頭尾歌〕　二条后「ゆきのうちにはるはきにけりうくひすのこほれるなみたいまやとくらむ」七条后「人わたすことたになきをなにしかもなからのはしと身のなりぬらん」
〔備考〕　百人各一首　細画彩色　かるた型を一面に二つおき　右に肖像と上句　左に下句を書く　㊟袖珍文庫第二十三編十三種百人一首所収

三三　**本朝武芸百人一首**　和一冊　一八・二×三・五
〔別名〕　武稽百人一首（国総）　〔編者〕　松亭金水〔見返し〕本朝武芸百人一首　東都松亭金水撰輯　東都清水芳玉女画　米林堂寿梓
〔柱〕　武芸百首　〔序〕　辛亥仲春　松亭金水述　〔刊年・等〕　嘉永四辛亥（一八五一）秋七月　吉田屋文三郎等十一軒　五十五丁
〔頭尾歌〕　武甕槌命「千はやふる神の御代より呉竹の世に光ある甕槌の神」有馬喜兵衛「法は釈迦武道のことはわれに問へ天上天下唯我独尊」
〔備考〕　百人各一首と肖像　上欄に略伝　口絵に日本武尊・剣・太刀・弓・鎗・鉄炮の由来をのせる

三四　**畸人百人一首**　和一冊　一七・九×三
〔輯者〕　緑亭川柳〔柱〕　畸人百首〔序〕　嘉永五壬子（一八五二）緑亭川柳誌〔刊年・等〕　嘉永五年（見返し）東都　山口屋藤兵衛等十二軒　序十・本文十一丁より六十丁
〔頭尾歌〕　渡会常政「常磐なる松を霞の色そへて猶かづまさる春の一入」伊勢貞丈「千早振天の岩戸のあけそめし日かげの桂さやかにぞ見る」
〔備考〕　近世における僧俗在野百人の歌各一首と肖像　上欄に各略伝をのせる　㊟袖珍文庫第二十三編十三種百人一首所収

三五　**贈答百人一首**　和一冊　一八・二×三・一
〔編者〕　緑亭川柳〔口画〕　葛飾為斎・一勇斎国芳・一猛斎芳虎・玉蘭斎貞秀・梅蝶楼国貞・一陽斎豊国〔柱〕　贈答百首〔序〕　嘉永六癸丑（一八五三）新春　自序〔刊年・等〕　刊年未詳　東都　山口屋藤兵衛等十三軒　六十丁
〔頭尾歌〕　左衛門佐基俊「奥山のやつほの椿君が代に幾たびかげをかへんとすらん」加茂季鷹「沖津鳥かもつく嶋による波のなみならぬ花と誰かおりけん」
〔備考〕　百人の贈答の歌各一首を集めた　上欄には物語逸事等をかかげる　口絵には拾芥抄　袋草紙等の誦歌・建保職人尽月の歌・やまと詞物の名等をのせる

三六　**当世百歌仙**　和一冊　三・六×一六・三
〔別名〕　安政新撰当世百歌仙（国総）〔撰者〕　多田清興〔序〕　安政二年（一八五五）五月　本居豊穎・金子杜とし誌〔跋〕　安政二とせといふとしの弥生　自跋〔刊年・等〕　刊年未詳　桃廼屋蔵板　発行書林　若山　阪本屋大二郎等八軒　製本所　阪本屋喜一郎
序四丁　本文五十丁　跋二丁　目録六丁
〔頭尾歌〕　試筆　足立弘訓「こほりゐしすゝりのうみもうちとけてふてのはやしにはるかせそふく」祝言　出雲宿禰尊孫「あめのしたひさしきことのためしにはきみかよをこそひくへかりけれ」
〔備考〕　当時現存の百人の歌各一首　但し第三首目小朝拝は題と歌のみで名前がない　巻末に「当世百歌仙作者目録」を付ける　花と蝶の模様入り　色刷の料紙を使ってある

三七　**花街百人一首**　和一冊　一八・二×三
〔撰者〕　未詳〔柱〕　百首〔序〕　安政三丙辰（一八五六）の初春恵方に向て東紫君の名代をつとめて　年増の新造識〔刊年・等〕　刊年未詳　安政三年刊（国総）序　口絵十丁　本文十一丁より六十丁
〔頭尾歌〕　玉屋山三郎内　若妙「紫はまだうら若しむさし野の草は禿の翠なりけり」久喜万字屋内　雲井「けふと過あすとくらしてひとゝせのおこたりくゆるとしの暮かな」
〔備考〕　吉原遊女百人の歌各一首と肖像　巻首に「陰陽和合の始」初代高尾より十一代高尾　薄雲　奥州　玉菊等のことあり　上欄には「元吉原開発の支」「五町丁名の支」より「大夫と呼名目の支」「廓言葉の支」「新今様の唱歌」等をのせる　㊟袖珍文庫第二十三編十三種百人一首所収

三七 **和漢百人一首** 和一冊 一八×三

〔著者〕賞月堂主人〔画〕玉蘭斎貞秀〔柱〕和漢百首〔庄〕安政四年（一八五七）春 案山子〔刊年・等〕刊年未詳 東都〔山口屋？〕藤兵衛等十三軒 口絵九丁 本文五十丁

〔頭尾歌〕手力雄命「常闇もたのしきみよとなりけるはあめたぢから雄たすけ有けり 大外記 春正」陶淵明「かへりなん菊の花咲ふるさとのそのふの秋のあれまくもをし 夏見」

〔備考〕和漢文武の英傑諸芸ある百人をたたえる歌百首 絵を添え上欄に略伝を付ける この書を「和漢百人集讃歌撰」と名づくとある（序） 一作者が数首詠んだものもある 口絵に二柄・六芸のことをのせる

三八 **和漢英雄百人一首** 和一冊 一八・二×二三・五

三七和漢百人一首に同じ 表題のみ改題した後摺本 刊年未詳（明治以後） 大阪書林 積善館蔵版 特別売捌所 東京 共和書店 等二十六軒

三九 **武稽百人一首** 和一冊 一八・二×二三・一

〔別名〕武芸百人一首（国総）〔編者〕笠亭仙果〔柱〕武芸百首〔序〕自序〔刊年・等〕刊年未詳 安政四年（一八五七）（宮武） 山口屋藤兵衛等十三軒 五十五丁

〔頭尾歌〕三一本朝武芸百人一首に同じ

〔備考〕百人の歌各一首と肖像 上欄に各略伝をのせる 序に「今書坊の需に応じ異国のをさへましへて忠孝の人一百人を輯め」とあるが異国人は入っていない

四〇 **武家百人一首** 和一冊 一八・二×二三

〔著者〕賞月堂主人〔画〕玉蘭斎貞秀

〔柱〕武家百首〔序〕無記名（一〇武家百人一首の跋文の一部を採り用いた）〔口絵〕本朝戦場八景（色刷）〔刊年・等〕刊年未詳 安政五年版（国総） 三都書肆 江戸椀屋伊兵衛等五軒 口絵九丁 本文五十丁

〔頭尾歌〕六孫王経基「雲井なる人をはるかにおもふにはわが心さへ空にこそなれ」足利義高公「月見ばと契りや置し小男鹿の来るあきごとの妻ごひの声」

〔備考〕武士百人の歌各一首と肖像 上欄に各略伝・逸話等をのせる 頭尾歌は一〇「武家百人一首」と一致するが作者二十人を入れかえてある

四一 **本朝英雄百人一首** 和一冊 一八・五×二三・九

〔著者〕〔画〕〔柱〕〔序〕〔口絵〕〔頭尾歌〕四〇に同じ〔刊年・等〕刊年未詳 大阪書林 積善館蔵板

〔備考〕三九の改題 後摺本

四二 **義烈前賢百人一首** 和一冊 二三・一×九・二

〔編者〕長尾聽教〔見返し〕義烈前賢百人一首 全 長尾聽教編輯 滝沢清臨書 明治十六年六月新刻 松田文書堂蔵〔柱〕訓蒙 前賢故実 松田氏蔵〔序〕癸未夏五月 稲熊繁樹しるす〔口絵〕端午の節句（色刷）三種神器他〔刊年・等〕明治十六年七月（一八八三）出版人 東京 松田幸助 癸兌書林 信州 長野県書林等十四軒 口絵六丁 本文五十二丁（最後の丁付五十三丁）

〔頭尾歌〕可美真手命 宇摩志摩治命図賛曰「霊彼矢簇視レ真知維天衒懿親督二師糾々武臣」藤原園人 弘仁四年四月幸皇大弟南池命文人賦詩右大臣上歌日「けふの日のやまの？ ほとりのほとゝきすたひとはちよとなくはきゝつや」天皇御和「ほとゝきすなく声きけばうたぬしとともに千代にとわれも聞たり」

〔備考〕前賢百三人に対して稲熊繁樹他のたゝえ歌・詩文があり肖像をかかげる 上欄に各人の略伝をのせる

四三 **宮城百人一首** 和活一冊 三・八×一五・二

〔輯者〕日野資始〔校正〕保田光則 橋本貞再校〔見返し〕仙台文庫叢書 仙台文庫編纂 第三輯 宮城百人一首〔柱〕宮城百人一首 仙台文庫叢書〔序〕慶応二年（一八六六）十月十五日保田光則〔刊年・等〕明治二十七年（一八九四）十一月廿八日 東京府 作並清亮 売捌所 伊勢斎助

〔頭尾歌〕中納言政宗卿「いつるより入る山の端はいつくそと月にとはゝやむさしのゝ原」左少将斎宗朝臣「さやけしな夏たにそれと見し月のまことの霜にみかくひかりは」

〔備考〕藩主の命により選んだ百人の歌各

一首　宮城百人一首遺稿と合綴

四四 **英名百人一首**　和一冊 写真版　三三・五×一五・七

〔著者〕大野彦次郎(淇斎)〔序〕花園廬山

〔題字〕昭和十四年八月　津田次郎〔刊年・等〕昭和十四年（一九三九）九月五日

名古屋市　大野彦次郎　一〇四頁

〔頭尾歌〕仁徳天皇「高き屋にのぼりて見れば煙立つたみのかまどはにぎはひにけり」西郷従道（西郷南洲の舎弟）「日の本の光りをそへて外国のみなとを照らす秋の夜の月」

〔備考〕百人に対する歌と絵　頭書に各略伝逸話を出す　巻首自画讃に「半身不随の身を以て英名百首の冊を編み」とあり　各歌を揮毫し画を添えた　時に所出の人の詠ではない明治天皇御製　阪正臣　山田千畝真渕他著者詠などをその旨を註して入れる

四五 **禽獣虫介彩画稿百人一首**　折写一帖　二六・三×一九・九

〔撰者未詳〕

〔頭尾歌〕慈鎮「もし人の夢やうつゝにあらはれてまかきの花の蝶とみゆらん」衣笠内大臣「鷺のとふ河辺のほたてくれなゐに夕日さひしき秋の水かな」

〔備考〕百人一首と称しているが　内容は百首の歌に対して同一人を多く出す　慈鎮一三　西行一一　寂蓮一一　家隆九　定家八　良経六　仲正六等二首以上を出すもの十四人ある　平安　今尾氏旧蔵本

四六 **義烈回天百首**　和一冊　一八・二×三・三

〔編者〕染崎延房〔見返し〕義烈回天百首　染崎延房編輯　鮮斎永濯画図　岩崎氏蔵版　東京書肆　金松堂発行〔柱〕義烈百首

〔序〕明治七年七月穀旦　自序〔刊年・等〕明治七年（一八七四）九月十五日　東京書房　辻岡屋文助等六軒　五十二丁

〔頭尾歌〕源烈公「咲きかけてちりなんものはものゝふの道に匂へる花にぞありける」参議安芳朝臣「手馴れつる玉の小琴の緒をたゝんふりし調べは聞く人もなし」

〔備考〕百人の歌各一首と肖像　上欄に小伝をかかげる　明治維新を中心とした勤王の士を多く集めた

四七 **近世報国百人一首**　和一冊　一八・一×三

〔編者〕転々堂藍泉（柳亭種彦三世）〔見返し〕近世報国百人一首　転々堂藍泉編輯　鮮斎永濯　孟斎芳虎画図〔柱〕報国百人一首〔序〕小羅浮舎あるじ・紀元二千五百三十五年〔明治八年（一八七五）〕第一月於転々堂南窓下　自序〔刊年・等〕刊年未詳　五十四丁（但し最後の丁付五十三丁）

〔頭尾歌〕孝明天皇「ぬは玉のよすがら冬の寒きにもつれて思ふは国民のこと」高山正之「我を人としろしめしてや皇の玉の御声のかゝる嬉しさ」

〔備考〕近世国事に斃れた勤王有志百人の遺吟残詠など各一首　上欄に略伝をのせる

四八 **明治英名百詠撰**　和一冊　一八・二×三・一

〔編者〕篠田久治郎〔見返し〕明治英銘百詠撰　篠田仙果編輯　生田芳春画　文泉堂

〔柱〕明治英名〔序〕笠亭主人篠田仙果記

〔刊年・等〕明治十二年（一八七九）十一月　東京　村上真助　序・口絵二丁　本文五十丁

〔頭尾歌・詩〕明治天皇新年祝言「あら玉の年もかわりぬ今日よりは民の心もいとゞひらけん」従五位大鳥圭介公「寸条尺幹見二花神一玉骨氷姿也是真盆裡呼為小庚嶺春風不許散芳莖」

〔備考〕安政年間よりの朝野有志百人を撰び各一首の詩歌をあげる　肖像を付し　上欄に略伝をのせる　跡見花蹊の漢詩及び略伝を収める

四九 **民間至宝大全明治新百人一首**　和一冊　三三・二×一六

〔編者・等〕小笠原美治　田島象二校訂

〔柱〕民間至宝大全明治新百人一首　弘令社出版局梓〔序〕明治十三年秋九月八日　帝洲田象二・弘令社のあるし源のよし治〔跋〕多治比真人象市？〔刊年・等〕明治十三年（一八八〇）十月廿三日　東京　小笠原美治　百五十二丁

〔頭尾歌〕後醍醐天皇「世おさまりたみやすかれといのるこそわか身につきぬねがひなりけり」後奈良院「くもりなき天津ひつ

きをみつかきのうへて久しき身をいのるかな」

〔備考〕百人各一首　肖像と略伝をのせる　頭書に明治史略　布告日用早引　大日本名山あり　更に百十五項目にわたって生活重宝記事を附載する大冊

五〇 **現今英名百首**　和一冊　一八×三・七

〔編者〕沼尻絃一郎〔見返し〕現今英名百首　真亭逢多編輯　鮮斎永濯画　明治十四年一月翻刻　文光堂蔵〔序〕明治十二乙卯（一八七九）四月穀旦駿男誌〔刊年・等〕明治十四年（一八八一）一月　名古屋　梶田勘助　序・口絵二丁　本文五十丁

〔頭尾歌〕三条実美公「年なみをかそへてみれはもろ手にもみつる隅田の秋の月かな」島津久光公「つくしがたおなじ雲井のうちなればおりにふれては思ひはてゝよ」

〔備考〕維新以来の功臣　在朝在野の名士の百人一首　大倉喜八郎　岩崎弥太郎　三井高福など実業家　柳北などの新聞人　跡見花蹊　松の門三艸子など女流の歌も輯めた　各々の肖像と頭書に各略伝をのせる

五一 **現今英名百首**　和一冊　一七・九×三・三

〔編者〕沼尻絃一郎　力石安之助〔見返し〕現今英名百首　真亭逢多編輯　鮮斎永濯画　講古堂蔵版〔序〕明治十二乙卯（一八七九）四月穀旦駿男誌〔刊年・等〕明治十四年（一八八一）二月　伊勢国　加藤万作　序・口絵二丁　本文五十丁

〔備考〕内容五〇に同じ

五二 **現今英名百首**　和一冊　三×八・六

〔編者〕沼尻絃一郎〔見返し〕現今英名百首　真亭逢多編輯　鮮斎永濯画　明治十四年九月出版　同盟閣癸兎〔柱〕英名百首　〔序〕明治十二年乙卯（一八七九）四月穀旦　駿男誌〔刊年・等〕明治十四年（一八八一）九月　原版人　力石安之助　翻刻人京都大谷玄之助　同　近藤太十郎　序。口絵二丁　本文五十丁

〔備考〕内容五〇に同じ

五三 **明治英名百首**　和一冊　一八・八×三・八

〔編者〕谷俊三〔見返し〕明治英名百首　鮮斎永濯図画　東京　博文館蔵版〔序〕駿男誌〔刊年・等〕明治廿七年（一八九四）五月七日求版　明治廿七年五月十日再版　東京　博文館　序・口絵二丁　本文五十丁

〔備考〕内容五〇に同じ

五四 **明治英名百人首**　和一冊　一八・四×三・五

〔編者〕安井乙熊〔見返し〕明治英名百人首　安井乙熊編輯　松斎吟光画図　発兎錦松堂〔題言〕明治十四年春三月　芝而居士拝誌〔刊年・等〕明治十四年（一八八一）四月三十日　東京　平野伝吉　序・口絵二丁　本文五十丁

〔頭尾歌〕今上天皇「うゑおきし庭の呉竹よゝをへて変らぬ色のたのもしき哉」編修官重野安繹公「樹裏残鶯窓外囀郵亭待得ニ尺天伝」

〔備考〕明治初年の名家百人の詩歌と肖像を輯めた（歌は五十首他は漢詩文）上欄に各略伝をのせる　跡見花蹊の歌掲載

五五 **貞操節義明治烈婦伝**　第一巻　和一冊　一七・八×一・八

〔著者〕松村春輔〔見返し〕貞操節義明治烈婦伝　文永堂〔柱〕明治烈婦伝〔序〕明治十四年春三月　桜雨主人題　古雄書〔刊年・等〕明治十四年（一八八一）六月二日　京橋区　武田伝右衛門　二十八丁

〔頭尾歌〕榎本武揚君の室「欲レ寄ニ一封相思意涙落ニ紙上一　静有レ声」城戸松子「松風を友と結びて解そむる掛樋の水に春や知るらん」

〔備考〕上巻五十人の歌・漢詩及び俳句と各々の肖像を出す　上欄に小伝をのせる　巻首に明治三才女之内として　蓮月　式部　三佐子の歌を出す（色刷）下巻欠

五六 **名婦百人撰**（柱）　和一冊　一八・一×三・三

〔編者〕岡田良策〔刊年・等〕明治十四年（一八八一）十二月二十四日　出版人　東京　大川錠吉　画工　同　伊藤静斎　浄書　同　大代蔦屋　彫刻　同　尼田長次郎　二十三枚（落丁本）

〔頭尾歌〕井手兼子「春雨の晴ゆくまゝに出て見れば峯の桜は咲そめにけり」天璋院「薩摩潟冲より深く思ひつる甲斐なき今は身となりにけり」

〔備考〕上巻欠　下巻四十六人の歌及び俳

句　各肖像を出し　上欄に小伝をのせる
元箋欠　書題箋「明治名婦百人撰第二巻全」
とある

五七　**近世文武名誉百人首**　和一冊　一八・三×二・四
〔編者〕谷壮太郎〔見返し〕近世文武名誉百人首　谷壮太郎編輯　歌川豊宣画　東京松林堂梓〔柱〕名誉百首〔序〕明治十四年秋九月　有志古美居士識〔口絵〕芝紅葉館之図（広重）色刷〔刊年・等〕明治十四年（一八八一）十二月　東京　水野慶治郎　序・口絵二丁　本文五十丁
〔頭尾歌〕今上皇帝「あら玉の年もかはりぬけふよりも民の心もいとゞひらけむ」奥原晴湖「うつしかた絵にかく竹の一とふしを世には高くも人にしられん」
〔備考〕和歌　俳句　漢詩文の百人一首　平尾歌子（下田）と共に跡見花蹊を収める

五八　**近世文武名誉百人一首**　和一冊　一一・七×八・六
〔編者〕〔柱〕〔序〕〔頭尾歌〕五七に同じ
〔見返し〕近世文武　名誉百人一首完　谷壮太郎編輯　歌川豊宣画　明治十五年三月出版　二書堂蔵板〔刊年・等〕明治十五年（一八八二）三月　原版人　水野慶次郎　翻刻人　京都　辻本定次郎　笹田弥兵衛
〔備考〕五七に同じ　但し口絵はない

五九　**高名像伝現今百人一首**　和一冊　一一・九×八・五
〔編者〕大島細吉〔見返し〕高名像伝現今百人一首　大島細吉編輯　後藤芳景画　明治十五年第四月出版　彫雲堂発兌〔柱〕現今百人一首〔序〕明治十五年の初春　編者〔刊年・等〕明治十五年（一八八二）四月〔京都〕　大島細吉　序・口絵二丁　本文五十丁
〔頭尾歌〕大政大臣三条実美卿「千代や千代かはらぬ御世の例ともみもすそ川は澄渡るらん」毛利元徳公「生ひ立てよ御園の菊は白銀も黄金の花も八重にさくまて」
〔備考〕百人各一首と肖像　上欄に各小伝をのせる　跡見花蹊の歌所収　色刷袋入り

六〇　**愛国民権演説家百詠選**　和二冊　上巻　一八・五×二・四　下巻　一八×二・一
〔編者〕谷壮太郎〔画〕歌川豊宣〔のど〕
演説百首〔序〕明治十有五年冬十月　観月樵夫識〔刊年・等〕明治十五年（一八八二）十二月　出版人　東京　水野幸　発兌人　水野慶治郎　上巻　口絵二丁　本文二十五丁・下巻　二十五丁
〔頭尾歌〕板垣退助「ことやまの紅葉をたつね行んよりあふぐ高根の明の玉垣」大隈重信「いろ〳〵の草木はなべておもしろく匂ひそめぬる梅のひと枝」
〔備考〕愛国民権の演説家百人の歌と漢詩文を出し肖像をそえる　上欄には各々の小伝をのせる

六一　**新撰百人一首**　和一冊　二五・四×一八・一
〔編者〕西村茂樹〔見返し〕新撰百人一首　附略解并小伝　西村茂樹纂輯　西阪成一略解　白石千別校閲　版権免許明治十六年九月廿六日　中外堂蔵梓〔題字〕明治十六年十二月　熾仁題〔序〕明治十六年十一月　南摩綱紀識・小中村清矩〔緒言〕明治十六年十一月　西阪成一誌〔跋〕明治十六年霜月の廿日はかり此冊に見終てかへしまゐらす時蓮池庵のあるし白石千別巻のしりへにしるす〔刊年・等〕明治十六年（一八八三）九月廿六日　略解並出版者〔東京〕西阪成一　出版者　同　柳河梅次郎　発兌　同　開成堂　百十一丁
〔頭尾歌〕天智天皇「秋の田のかりほのいほのとまをあらみわが衣ては露にぬれつつ」順徳院「玉島や川瀬のなみの音はしてかすみにうかぶ春の月影」
〔備考〕小倉百人一首を教育的見地から改訂した百人一首　同一作者の歌を更え　又は作者及び歌をかえた　画は安永年間　勝川春章の彩色画本に拠る　歌は多田親愛筆

六二　**現今自筆百人一首**　和一冊　三・一×一六・四
〔編者〕網野延平〔序〕明治十九年九月五日　自序〔跋〕明治の廿年の夏の頃　硯堂のあるし美静〔刊年・等〕明治十九年十月二日（一八八六）〔東京〕網野延平　発売取次所　花雨吟社　五十四枚
〔頭尾歌〕窓竹　熾仁「裁おきてすくなるたけのよろつよをともなふまゝのあけたてにみむ」海眺望　実美「立のほる煙をこめ

て春の日のあけかたかすむいつの大しま」
〔備考〕百人各一首　色刷色紙型に　各作者の自筆を木版にして収めた　上等製本彩色入奉書摺　巻末に玉詠者居住地目録を付ける

六三　**現今自筆百人一首**　和一冊　三・七×一六・七
六二に同じ　但し本書は中等製本白紙印刷
仕立　製本兼販売所〔東京〕松井総兵衛

六四　**現今自筆百人一首**　続篇　和一冊
三・一×一六・六
〔編者〕網野延平〔見返し〕現今自筆百人一首　網野延平翁輯　続編　東京　蓬園蔵板〔序〕明治廿二年四月　黒川真頼　同年三月穂積重嶺〔跋〕明治廿二年三月十八日自跋〔刊年・等〕明治廿二年（一八八九）四月十二日　〔東京〕　網野延平　印刷人同　松井総兵衛　売捌人　同　伊豆田富太郎序二丁本文・他五十四丁
〔頭尾歌〕　熾仁「千早振神のむかしを仰くかな杜の木たちもいやたかくして」寄山述懐　元徳「いはやまのかけすくつれぬ心もて仕へまつらむよろつ代までに」
〔備考〕百人各一首　色刷の色紙型に作者の自筆を木版にして収めた　巻末に住居人名録　跋に「これにあまれるは三編にものして世に伝へむとす」とある

六五　**諺百人一首**　和一冊　一八・五×二三・五
〔編者〕勝野正満〔見返し〕諺百人一首
佐々木弘綱先生閲　勝野正満編輯　葎屋蔵梓



〔序〕陽春庵のあるし清矩〔刊年・等〕明治十九年（一八八六）十一月十日　編輯兼出版人　横浜区　勝野正満　発行書林　東京　吉川半七等十軒　五十丁
〔頭尾歌〕正三位　交野時万　在東京「あらそひし言葉の花はちるとても誠のたねはよにやのこらむ」本居豊頴　和歌山県「未とほくなかれんなにはえやかへむうき瀬にたつもあしのひとよを」
〔備考〕百人の歌各一首と肖像　上欄には「論ヨリ証拠」（巻頭）「人ハ一代名ハ末代」（巻末）の如く歌の上に諺を出す

六六　**中興高名百首**　和一冊　三・二×八・六
〔編者〕河邨与一郎〔柱〕中高名百首
〔緒言〕壬午端履月　蔵真洞逸氏謹識〔口絵〕孝明天皇加茂御幸之図〔刊年・等〕明治廿三年（一八九〇）四月十日　出版人〔京都〕杉本甚助　発兌人　大谷玄之助等二軒　緒言・口絵二丁　本文他五十一丁
〔頭尾歌〕孝明天皇「位山神のこゝろはいかならんおろかなる身の居るもくるしき」三条大政大臣「細戈のちたるの御稜威いつしかもおしてにらさむ国のやそしま」
〔備考〕明治中興にあたり　功高かりし人百人の和歌と漢詩各一首　肖像をかかげ上欄に略伝をのせる

六七　**日本英傑百首**　和一冊　一八・六×三・八
〔撰者〕桜陰居士〔見返し〕日本英傑百首
桜陰居士撰　歌川国英画　四書房発兌

〔扉〕御製（明治天皇）〔口絵〕板垣退助伊藤博文　大隈重信の肖像（色刷）〔序〕明治廿あまり五とせのうつきこすゑのましらしるす〔刊年・等〕明治二十五年（一八九二）六月七日訂正再校　京橋区　山中孝之助　発売書肆　神田区　井上定吉等三軒巻首二丁　本文五十丁
〔頭尾歌〕大勲位　小松彰仁親王「朝日彰くもらぬそらをまちいてゝうれしけになくあしたつの声」一品大勧位　有栖川熾仁親王「ひさかたの雲ゐのとけく君か代をうたふは鶴のちとせなりけり」
〔備考〕百名家作の歌と俳句　漢詞を輯め上欄その他で小伝をかかげる　題箋には「国会議員百首」とある

六八　**北海百人一首**　洋一冊　一八・八×二三・七
〔編者〕河野常吉〔序〕明治三十九年八月十二日　理堂関場不二彦識　丙午立秋　湘香敦草　小川黙渕識　佐藤守雄〔刊年・等〕明治三十九年（一九〇六）九月四日
北海道札幌区　河野常吉　百頁
〔頭尾歌〕加茂真渕「津軽舟きた吹く風にこゝろせよ蝦夷か浦わは波たゝすとも」近衛篤麿「醜草の茂りし野辺を今日みれはさかぬくまなし大和なてしこ」
〔備考〕北海道　千島　樺太に関する和歌及び七言絶句各五十首を撰んだ　故人七十五人　生存者二十五人　各首作者の小伝を付ける

六九 **武家百人一首**　洋一冊　一八・七×二三・七
〔編者〕富田良穂〔序〕明治の四十まり三年二月の廿日杉之戸のあるし〔刊年・等〕明治四十三年（一九一〇）一月廿五日　豊橋市　富田良穂　四十四頁
〔頭尾歌〕武内宿禰「近江の海瀬田のわたりにかつく鳥めにしみえねは生のふらしも」井伊直弼「近江の海いそうつ波のいくたひかみよにこゝろをくたきぬる哉」
〔備考〕英雄・豪傑・烈女百人の歌各一首

七〇 **日本偉人百首通解**　和活一冊　三・八×一四・七
〔著者〕斎藤良次郎〔編〕大阪毎日新聞社〔題字〕明治三十九年（一九〇六）五月廿七日　東郷海軍大将〔刊行の辞〕大阪毎日新聞社編輯局に於て浩々歌客記〔刊年・等〕大正二年（一九一三）十二月五日　大阪毎日新聞社　一二八頁
〔頭尾歌〕素盞烏尊「八雲立つ出雲八重垣妻こみに八重垣つくるそのやへがきを」乃木希典「うつしよを神さりましゝ大君のみあとしたひて我はゆくなり」
〔備考〕偉人百人の「略伝」と歌各一首並びにその解説をのせる

七一 **明治百人一首**　和一冊　二四×一六・三
〔編者〕末吉勘四郎〔序〕大正四年十一月自序〔跋〕大正四年十月廿四日　浪華の磯野惟秋しるす〔刊年・等〕大正四年（一九一五）十一月一日　大阪　末吉勘四郎　本文オフセット及び活字版　六十枚　帙入
〔頭尾歌〕明治天皇「あし原のくにとまさんと思ふにも青人草そ宝なりける」昭憲皇太后「吉野山みさゝき近くなりぬらんちりくる花も打しめりたる」
〔備考〕巻末に各作者の「明治百人一首小伝」をのせる　大正四年　大正天皇即位を記念し　明治年間物故の歌人名士の歌を撰ぶ　但し例外として乃木大将夫妻を収め更に昭憲皇太后の御歌を収めた　歌は磯野維秋筆　鈴木洪園画をオフセット印刷した画は歌意に添ったもの

七二 **吉備百首**　和活一冊　三・八×一五・五
〔選者・等〕山田貞芳　木山厳太郎訂〔序〕大正九年（一九二〇）十月上澣　木山厳太郎誌す〔刊年・等〕大正十年（一九二一）二月廿八日　岡山県　木山厳太郎他　四十六頁
〔頭尾歌〕夢想の歌　宮本武蔵「なかゝゝに人里ちかくなりに鳧あまりに山の奥をたつねて」小野節「やせ畑の二まち三まちすてかねて此山里にくちやはてなむ」
〔備考〕備前に於ける慶長・元和以後大正に至る百人の名家の詠　各一首を撰ぶ　各歌に註を付ける

七三 **桜百人一首**　折込み四枚　五〇・五×七三
〔撰者〕杉浦重剛〔書〕取札　杉浦久寿猪子読札　西川梅子〔画〕大野静方〔刊年・等〕称好塾蔵板　昭和四年（一九二七）二月十一日　東京政教社　日本及日本人第百七十号附録　四枚（一枚にかるた形式で五〇首）
〔頭尾歌〕仁徳天皇「たかき屋にのぼりてみればけむりたつ民のかまとはにぎはひにけり」孝明天皇「みな人のこゝろのかきりつくしてしのちにそたのめ伊勢の神風」
〔備考〕仁徳天皇より孝明天皇までの　当時模範的人物百人の歌各一首　肖像をそえる　㊟桜百人一首に就いて（杉浦真鉄　日本及日本人　百七十号　六十三頁）

七四 **自筆百人一首**　和活一冊　二六・五×一九
〔編者〕大町壮〔刊年・等〕昭和十年（一九三五）十月二十日　東京　大日本歌道奨励会　一〇四頁
〔頭尾歌〕情「をり〳〵はうたぬ鞭さへとりてみつ子をいましむる親の情けに　兵庫県　医師　水野善一」松上雪「つちを這ふ老木のまつのおもしろき枝ふりみせてつもる雪かな　長野県　無職　相沢弥太郎」
〔備考〕会員中より自作の歌を募集し　撰定委員によって選ばれた百人の歌各一首各自の写真並びに自筆の当撰歌を写真版としてかかげる　巻末に次選歌十五首

七五 **文壇百人一首**　和活一冊　一〇×二・七
〔刊年・等〕昭和十一年（一九三六）一月一日より同年一月十六日　東京日々新聞掲載の切抜帖　十三頁
〔頭尾歌〕潤一郎の近什に題す「松に倚る庵の主は古き世の恋を温ねていよよ飽かぬ

かも　辰野隆」「戸のもにはつめたき風ぞ吹きてあらむ色なき空に松のゆれをり（冬ごもり）海音寺潮五郎」
〔備考〕文壇人百一人の歌　各一首

七六 **昭和百人一首**　和活一冊　九・九×二二・七
〔刊年・等〕昭和十一年（一九三六）十二月　東京日々新聞掲載の切抜帖　十七頁
〔頭尾歌〕釈迢空「とし深き山のかそけさ人をりてまれにもの言ふ声きこえつゝ」吉井勇「大阿蘇の山の煙はおもしろし空にのぼりて夏雲となる」
〔備考〕当時現役著名歌人百人の歌各一首

七七 **精神興揚 国民百人一首**　和活一冊　三・六×一五・五
〔編者〕橋本関雪〔言葉に代えて〕昭和十三年七月　自序〔刊年・等〕昭和十三年（一九三八）八月十五日　京都　橋本関雪
序・他五頁　本文三十四頁　追記一頁
〔頭尾歌〕後醍醐天皇「世治まり民やすかれと祈るこそ　己が身につきぬ願ひなりけり」大橋巻子「あまかける魂のゆくゑは九重の御階のもとになほや守らむ」
〔備考〕南北朝よりの明君　烈士　篤学烈女など百人の歌各一首と略伝・追記　昭和十三年十一月十五日に重版あり

七八 **歴代秀吟百首**　洋一冊　一九・三×一三・七
〔著者〕川田順〔序〕昭和十四年十月　自序〔刊年・等〕昭和十四年（一九三九）十一月三十日　東京　三省堂　一六六頁
〔頭尾歌〕天武天皇「吾が里に大雪ふれり大原の古りにし郷にふらまくは後　万葉集」野村望東尼「ひとたびは野分の風の払はずは清くはならじ秋の大空　姫島日記」
〔備考〕歴代の秀吟百首と評釈　巻末に「歴代秀吟百首後記」「作者略譜」を付ける　序に「雑誌「短歌研究」昭和十三年十月号「歴代秀吟百首」は本文の歌と後記のみであった　新に各首の評釈を書き添へて一巻にまとめ上梓する」とある

七九 **詠馬百人一首**　和活一冊　一五×二・六
〔編者〕負野英軒〔見返し〕挨拶　子午庵負野英軒述（上部に白馬節会の曳馬の絵がある）〔刊年・等〕昭和十五年（一九四〇）二月二十一日　京都　子午会
〔頭尾歌〕万葉「赤駒の越ゆる馬柵の標結ひし妹がこころは疑ひもなし」夫木「白馬をひくにつけても子の日する野べの小松を忘れやはする」
〔備考〕所載和歌集・歌・註解・読み人と別称続称・備考と小倉百人歌の項に分け百首をかかげる　表紙に「吾嬬路をはるかに出る望月のこまにこよひや逢坂の関　源仲正」の歌と絵　後表紙に皇太后大夫俊成「駒とめて猶水かはむ山ぶきの花の露そふ井手の玉川」の歌と絵がある

八〇 **愛国百人一首**　洋一冊　一八・一×二・七
〔著者〕川田順〔序〕昭和十六年七月　自序〔刊年・等〕昭和十六年（一九四一）十一月十日再版　東京　大日本雄弁会講談社　一四一頁（装幀）吉村忠夫
〔頭尾歌〕大葉子「韓国の城の上に立ちて大葉子は領巾振らすも日本へ向きて」乃木希典「うつし世を神去りましし大君のみあとしたひて我は行くなり」
〔備考〕忠君愛国の歌百人各一首　歌の意略伝を付ける　巻末に「愛国歌概説」「後記」をのせる

八一 **皇国百人一首**　洋一冊　一八・七×二・七
〔撰者〕金子薫園〔序〕昭和十七年三月著者〔刊年・等〕昭和十七年（一九四二）八月十五日　東京　文明社　二二六頁
〔頭尾歌〕「夕されば小倉の山に鳴く鹿は今夜は鳴かず寝ねにけらしも　舒明天皇」「そのむかし少年にして師の大人のうしろより見し秋萩の花　与謝野寛」
〔備考〕日本精神に徹する名歌　百人各一首　見開き二頁　右に歌をのせ　左にその註釈をかかげた

八二 **定本愛国百人一首解説**　洋一冊　一八・七×二
〔編者〕日本文学報国会〔選定委員〕佐佐木信綱　斎藤茂吉　太田水穂　尾上紫舟　窪田空穂　折口信夫　吉植庄亮　川田順　斎藤瀏　土屋文明　松村英一〔解説〕土屋文明　尾上紫舟　吉植庄亮　川田順　松村英一〔刊年・等〕昭和十八年（一九四三）三月廿五日（二万部）東京　毎日新聞社　二一四頁〔装幀〕安田靫彦〔題簽〕小松鳳来

〔頭尾歌〕「大君は神にしませば天雲の雷の上にいほりせるかも　柿本人麻呂」「春にあけてまづみる書も天地のはじめの時と読み出づるかな　橘曙覧」
〔備考〕昭和十七年十一月二十日に成立発表された百人の愛国の歌各一首と　歌の大意・作者略伝・制作事情・語釈・出典をかかげる　凡例に「百人の順序　本文　氏の唱呼　語の正濁等は佐佐木信綱氏の考証に拠れり」とある

八三　**戦時版愛国かるた付き　愛国百人一首早わかり**　洋一冊　一八・三×三・七
〔編者〕西川禎則〔はしがき〕昭和十七年十二月八日　著者識〔刊年・等〕昭和十八年（一九四三）二月二十日改訂発行（初版、昭和十七年十二月二十一日）東京・建軍精神普及会　百頁
〔備考〕歌は八二に同じ　これに作者略伝・語訳・口訳・評をのせ　各々の肖像をかかげる

八四　**愛国百人一首手習鑒**　洋一冊　三・一×一四・八
〔編書者〕西川鉄児〔刊年・等〕昭和十八年（一九四三）三月二十日〔非売品〕東京　東亜書学院　六十四枚
〔備考〕歌は八二に同じ　書道手本集

八五　**愛国百人一首手習帖**　和一冊　三〇・八×一四・七
〔著者〕平尾花笠〔刊年・等〕昭和十八年（一九四三）四月二十日　東京　泰東書道院出版部　百頁
〔備考〕愛国百人一首を習字の手本として印行したもの　歌は八二に同じ

八六　**絵と解　あいこく　百人一首**　洋一冊　一八・六×一三・四
〔著者〕梅田章〔序〕昭和十八年三月　安藤正次　矢野峰人　滋賀多喜雄〔あとがき〕昭和十八年三月三十一日　台南の旅舎にて著者〔刊年・他〕昭和十八年（一九四三）五月二日　台北　大木書房出版社　二〇四　一〇頁
〔備考〕歌は八二に同じこれに挿絵と解説を付ける

八七　**愛国百人一首**　色紙　二六・五×二三・七
〔筆者〕西田王堂〔画者〕榊原子恭〔刊年・等〕昭和十八年（一九四三）八月二十日　大阪　国民出版社　色紙百枚　箱入り
〔備考〕歌　八二に同じ　習字用（百躰）

八八　**愛国百人一首物語**　洋一冊　一八・二×三・七
〔著者〕村松英一〔序〕昭和十八年九月　本文の校了となりたる日に　自序〔刊年・等〕昭和十八年（一九四三）十一月三日　東京　天佑書房　四四〇・一〇頁
〔備考〕歌は八二に同じ　これに語釈・歌意・作歌動機・作者伝記・作風・出典を掲げる　巻末に初句・四句索引を付ける

八九　**愛国百人首一帖**　洋一冊　〔写真版〕　二五・九×一八・五
〔筆者〕大沢竹胎〔刊年・等〕昭和十八年（一九四三）十二月十五日　東京　荻原星文館　一四七頁
〔備考〕内容　愛国百人一首総覧（柿本人麻呂より橘曙覧の歌百首）口絵に短冊・色紙・扇面・うちわ・仮名条幅の著者筆の書式をのせる　本文は茶色用紙に様式の変化をみせ百首を習字用に掲げる　巻末に「短冊の揮毫法」「色紙の揮毫法「扇面の揮毫法」「仮名条幅の揮毫法」「仮名書道鍛錬への一般的注意」を載せる

九〇　**愛国百人一首**　和一冊　写真版　二五・七×一八・二
〔著者〕比田井小琴〔刊年・等〕昭和十九年（一九四四）三月十五日　東京　書学院　本文一〇一頁他六頁
〔備考〕習字用百躰　歌は八二に同じ

九一　**愛国百人一首評釈**　洋一冊　二一×一四・八
〔著者〕川田順〔刊年・等〕昭和十九年（一九四四）十二月十日三版（一万部）
〔昭和十八年五月十日初版一万部〕大阪　朝日新聞社　二九四頁
〔備考〕百人の愛国の歌各一首と評釈　後に「愛国歌史・補記・作者略伝・巻末記　昭和十八年三月一日　川田順」並びに「川田順略歴並著者要目」をのせる

九二　**和英対訳　平和百人一首**　洋一冊　二一×一五・二
〔編者〕仁木三良〔序〕一九五〇年　自序（英文）〔刊年・等〕昭和二十五年（一九五〇）十一月三日　東京　平和の鐘楼建立会　一〇〇頁
〔頭尾歌〕中島哀浪「さきんぜし武器なき国の幸福をわかたむとする鐘の音をきけ」

土岐善麿「たたかはぬわれらはすがし破魔弓も破魔矢もさへも床に飾らず」
〔備考〕百人各一首とその英訳〔口絵〕日本の四季　春（安田靫彦）夏（小林古径）秋（堂本印象）冬（福田平八郎）　色刷

九三 **新撰百人一首**　洋一冊　一八・六×一三・二
〔編者〕佐佐木信綱〔序〕昭和三十四年（一九五九）四月　自序〔刊年・等〕昭和三十六年（一九六一）熱海竹柏会　一一八頁（新撰百人一首注と合冊）
〔頭尾歌〕須佐之男命「八雲たつ出雲八重垣妻ごみに八重垣つくるその八重垣を」明治天皇「高殿の窓てふ窓をあけさせて四方の桜のさかりをぞ見る」
〔備考〕昭和三十四年四月　皇太子殿下美智子妃殿下の御成婚を祝い上代以降明治までの歌のうちよりえらびささげたもの百人各一首「新撰百人一首注」の序に「さきに　嘉辰令月の御寿代にもと　新撰百人一首を選びてささげまつりたしが　こたび百首の釈文をものし　また　万葉集よりぬき出でたる歌の順序をいささか改め　再びささげまつるといふ　昭和三十六年六月佐佐木信綱　時年九十」とある

九四 **和歌漢詩 明治維新百人一首**　洋一冊　一七・三×一〇・八
〔編者〕不二歌道会〔刊年・等〕昭和四十一年（一九六六）五月廿五日　東京　不二歌道会　一八五頁
〔頭尾歌・詩〕「明治維新和歌百人一首」孝明天皇「鉾とりてまもれ宮びとここのへのみはしの桜風そよぐなり」西郷隆盛「上衣はさもあらばあれ敷島の大和にしきを心にそぞきる」「明治維新漢詩百人一首」竹内式部　呈中山大納言「曽抜忠誠厳帝家雷名一撃動天過　功成身退今何楽　不尽乾坤雪月花」西郷隆盛　謫居作「朝蒙恩遇夕焚坑　人生浮沈似晦明　縦不回光葵向日　若無開運意推誠　洛陽知已皆為鬼南嶼俘囚独竊生　生死何疑天附与　願留魂魄護皇城」
〔備考〕和歌・漢詩各百人各一首　巻末に作者小伝（附註解）・明治維新小史・明治維新略年譜をのせる

## 2、道歌・教訓歌

九五 **道歌百人一首麓技折**　和一冊　一七・八×一三・三
〔撰者〕未詳　〔序〕無記名〔刊年・等〕天保四年巳冬（一八三三）京　めときや宗八　二十六丁
〔頭尾歌〕聖徳太子御製「櫓も擢もわれとはとらで法の道たゞ船ぬしにまかせてぞ行」元和上皇御製「あれを見よ鳥辺の山の夕烟それさへかぜにをくれさきだつ」
〔備考〕諸家名徳百人の歌各一首と肖像をのせる　一頁におおむね二首をおく　道歌百人一首の改題本（国総）

九六 **道歌百人一首麓枝折**　和一冊　一八・八×一三
九四に同じ〔刊年・等〕刊年未詳　京　小川源兵衛（延享―天保　書賈）

九七 **道歌百人一首麓枝折**　和一冊　一七・八×一三・三
〔序〕なし〔刊年・等〕刊年未詳　十七丁
〔備考〕頭尾歌は九四に同じ　前書の概ね一頁　歌と肖像二人づつを三人にし　丁数もこれは十七丁にした

九八 **道歌百人一首**　和一冊　一七・五×一一・五
〔柱〕道歌〔序〕桂亭紀賤丸識〔刊年・等〕刊年未詳　弘化三年刊（国総）十三丁
〔頭尾歌〕聖徳太子御製「櫓も擢もわれとはとらで法の道たゞ舟ぬしにまかせてぞ行」元和上皇御製「あれを見よ鳥辺の山の夕けふり夫さへ風におくれ先立」
〔備考〕諸家名徳百人の歌各一首と肖像をのせる（広重画）各丁裏表四人をのせる　改題本に「仏家百人一首」「道歌百人一首麓枝折」がある（国総）

九九 **道歌百人一首**　和一冊　一八・一×一三
〔序〕無記名〔刊年・等〕刊年未詳　十二丁
〔頭尾歌〕九七に同じ　但し異板　歌・肖像共に異る

一〇〇 **〔本朝高僧百人一首〕**　和一冊　一八・一×一三
〔撰者〕未詳〔序〕沙羅樹下参徒　無染居士しるす〔刊年・等〕刊年未詳　二十六丁
〔頭尾歌〕檀林皇后「もろこしの山のあなたにたつ雲はこゝにたつ火のけむりなりけり」東嶺和尚「あらわれて鏡にものは移れども中〳〵色は分らざりけり」

〔備考〕高僧等五十人の歌各一首と肖像上欄に略伝をのせる

一〇一　**浄土百歌仙**　和一冊　三・六×一五・七
〔別名〕浄土百家仙（宮武）〔画丼書〕近藤伊一〔跋〕安政三年次丙辰（一八五六）仲春尾陽隠衲某跋〔刊年・等〕刊年未詳　近藤伊一画丼書　行年六十五　聖衆来迎奔蔵版　真崎普房彫　五十一丁
〔頭尾歌〕善光寺如来風雅「まちかねて歎くとつけよみな人にいつをいつとていそかさるらん」仁明天皇新拾遺「いつのまにいとふ心をかつ見つゝはちすにおかはわかみなるらん」
〔備考〕跋に「茲ニ今二十一代和歌集釈教中関係　干我浄土法一者抄二出百首一模二写於歌人之肖像一勒為二一巻名曰三浄土百歌仙一以備二童蒙玩弄一……」とある〔別名〕浄土百歌仙の角書には「二十一代集釈教」とある
（国総）　本書は元題箋を欠く　書題箋に「釈門宗依百人一首」とあり　見返しには「釈教百人一首」との書入れがある「勅撰集より釈教に関する百首を選べるもの」（福井）
百人の歌各一首と肖像をのせる

一〇二　**心学絵入道歌百首和解**　和一冊　三・六×一六
〔編者〕守本恵観〔端書〕明治十九年の秋さくらどのあるじたまを〔序〕自序〔刊年・等〕明治十九年（一八八六）九月廿六日
著述兼出版人　京都　守本恵観　信行社蔵版
彫刻人　森治助　売弘所　沢田友五郎
等二軒　五十二丁
〔頭尾歌〕「風は息月日は眼躰は土海山かけて吾身なりけり」「闇の夜に啼ぬ鳥の声聞けば生れぬ先の父ぞ恋しき」
〔備考〕古人の道歌百首と　それに関する道話を記し挿絵を添える

一〇三　**家庭歌訓修身百首**　洋一冊　三・六×一四・四
〔著者〕杉谷正隆〔序〕明治三十年九月廿五日　大江朝臣正臣（阪正臣）〔刊年・等〕明治三十年（一八九七）十月七日　東京国光社　百五十五頁
〔頭尾歌〕後宇多天皇「天つ神国つやしろをいはひてぞわがあし原の国はをさまる」今上天皇陛下「千早振神ぞしるらむ民の為世をやすかれと思ふ心は」
〔備考〕古今の歌の中から　修身正行の教となる百人の歌各一首を撰び集め解釈を付けた

一〇四　**家庭歌訓修身百首**　洋一冊　三・八×一四・四
一〇三に同じ　明治三十二年（一八九九）五月十三日発行

一〇五　**詳解教育百首**　和活一冊　一八・三×一三・五
〔著者〕斎藤由松〔緒言〕明治三十六年（一九〇三）七月　編者しるす〔刊年・等〕明治三十七年（一九〇四）一月廿五日　新潟市　坪谷嘉平治　一〇〇頁
〔頭尾歌〕藤原良経「わが国は天てる神の末なれば日の本としもいふにぞありける」聖武天皇「ますらをの行くとふ道ぞおほろかに思ひてゆくな益荒雄の友」
〔備考〕古今百人の歌各一首と「解」「大意」をのせる　巻首に勅語　本居豊頴　木村正辞の題詠あり

一〇六　**精神教育和魂百人一首**　洋一冊　三・一×一五・一
〔著者・等〕高柳秀雄　本居東宮侍講校訂
〔序〕紀元二千五百六十二年（明治三十五年―一九〇二）六月廿四日　自序〔刊年・等〕明治三十七年（一九〇四）二月十五日　東京　金港堂書籍株式会社　百三十八頁
〔頭尾歌〕宗良親王「君のため世のため何かをしからむすてゝかひある命なりせば」三条実美「月と日の清き鏡にはぢざるはあかき心の誠なりけり」
〔備考〕皇族　公卿　学者　農　商　他百人の歌各一首を選び肖像を出し略伝を付ける　巻首に勅語　紫雲のかをり（後鳥羽天皇より皇太子妃殿下御歌十二首）附録に「女子教育三十六歌仙（下田歌子先生閲）」をのせる

一〇七　**教訓百人一首**　洋一冊　三・三×七・五
〔撰者〕後藤和子〔序〕明治三十九年三月自序〔刊年・等〕明治三十九年（一九〇六）六月六日　台北　台湾日日新報社　一〇〇頁
〔頭尾歌〕御製「冬深くねやのふすまを重ねてもおもふは民の夜寒なりけり」フルベツキ「すめがみのくだしたまへる大和魂磨けやみがけひかりでるまで」

〔備考〕 百人の詠んだ教訓の助けとなる歌百首

一〇八 **新撰教訓百首註解** 洋一冊 三・七×一五

〔撰者〕 三輪田真佐子〔序〕明治四十一年梅花盛のころ 自序〔刊年・等〕明治四十一年（一九〇八）三月二十日 東京 榊原文盛堂 二〇二頁

〔頭尾歌〕 今上陛下御製（明治天皇）「とこしへに民やすかれと祈るなるわが代をまもれ伊勢の太神」橘守部「雨そゝぐ軒の下石くぼみけりかたき業とて思ひすてめや」

〔備考〕 序に「古来人心を導き 道心を盛んらしむるに足る和歌百首を撰び これを教育上の資料に供せんとす 果して 世を益することあらば こよなき幸になん」とある 歌の意にそつて修身の道を説き百人の略伝をのせる

一〇九 **百人一首教訓鑑** 和 上中合一冊（仮綴）

三・三×一六・八

〔刊年・等〕 刊年未詳 どうとんぼりひの上 本善？板 四丁 下巻欠

〔頭尾歌〕 てんちてんわう「あきのたのかりほのいねも十ぶんにかみはもとよりしもゝにぎあふ」ゆうしないしんわう「おとなしくおやのおゝせにしたがはゞかけしやぐはんもかないこそすれ」

〔備考〕 小倉百首のもじり教訓の歌 下巻欠本のため七十二首と絵 上巻表紙左端に新板男女童諭とあり「忠孝」と書かれた書を持つ男女の絵 中巻表紙には前記の右横に 去人の狂歌にとして「福徳はこゝにありとて大黒がこらへ袋をぐつとおさへた」の歌と大黒の絵がある

## 3、狂 歌

一一〇 **江戸名所百人一首** 和一冊 複製本 三・四×一六・一

〔筆者・画工〕 近藤助五郎清春〔柱〕江戸百〔刊年・等〕寛文三年刊（一六六三）（国総）大正七年（一九一八）十月廿五日 稀書複製会第四回 印行三百部之内 第八号 東京 米山堂 二十五丁

〔頭尾歌〕 天智天皇「秋の田をかりほすいねのひまをゑらみ六あみだへそまいり行つゝ」じゆんとく院「百敷やふるきみてらやきね川のなを有がたきやくしなりけり」

〔備考〕 小倉百首の上句を入れ 江戸の神社仏閣等名所めぐりの狂歌百首 これに見合う絵をのせる 題箋に「人形町通 ひらのや」とある

一一一 **犬百人一首** 和一冊 複製本 二四・二×一七・一

〔別名〕 狂歌絵本百人一首・狂詠犬百人一首（国総）〔著者〕幽双菴〔柱〕犬百人一首〔跋〕自跋〔刊年・等〕寛文九配歳（一六六九）中夏上旬 大正八年（一九一九）七月廿五日 稀書複製会第十三回 印行三百部之内第二四八号 東京 米山堂 本文五十丁 跋一丁

〔頭尾歌〕 鈍智てんほう「あきれたのかれこれ囲碁の友をあつめ我だまし手は終にしれつゝ」潤沢院「物数奇やたかきねごろのおしきにも猶あまりあるお菓子なりけり」

〔備考〕 小倉百首のもじり狂歌百首 挿絵は当時の風俗を知る上のよすがとなる「大正十五年六月石川巌氏が雑誌書物往来に採録したのが此書の活字になつた最初であらう」とある（菅近）

一一二 **今様職人尽百人一首** 和一冊 複製本

三・五×一六・五

〔筆作者〕 近藤助五郎清春〔柱〕しよく人・職人〔刊年・等〕昭和三年（一九二八）十二月廿八日（享保年間刊（国総））稀書複製会第六期第二回 印行五百部之内 東京 米山堂 二十五丁

〔頭尾歌〕 てんちてんわう（大工）「のきのいたかりほぞあなののみをゑらみわかてしどものせいをだしつゝ」じゆんとくゐん（医師）「百びやうのおもきやまひをなをすにもなをやくしゆあるくふうなりけり」

〔備考〕 小倉百人一首もじり狂歌百首 百職の歌と絵

一一三 **芝居百人一首** 和一冊 複製本 二六×一八・六

〔別名〕 古今四場居百人一首 古今四場居色競 四場居百人一首（国総）〔作者〕童戯堂四転 恋雀亭四染（頭書ほめ言葉）〔画〕鳥居清信〔成立〕元禄六年（一六九三）五月〔刊年・等〕大正三年（一九一四）四月

三十日　東京　演芸珍書刊行会　六十四丁
〔序〕性悪軒四泥子〔跋〕頓作庵四藤鹿跋之
〔後序〕みつのとのとりの睦月はじめに三?味線山下の鈍翁?士?脚にふんでを道楽新にそゝぐ
〔頭尾歌〕猿若中村勘三郎「あさぎ帯かるたむすびのとけぬまに我かかたひらは汗にぬれつゝ」森田勘弥「百金にふるき役者をかゝえても猶あまりなき仕くみなり梟」
〔備考〕江戸における役者の評判記　当時の名優百人を撰び　小倉百首を擬して歌によむ　頭書にその役者に対してのほめ言葉を記し絵を添える〔解題〕大正三年四月　伊原青々園〔跋〕明治十七年甲申菊月　かくいふもとの持ぬし関根只誠「この書は元禄六年夏五月の開板にして　はじめは芝居百人一首と題号しゝが賤しき河原者をやんことなき小倉の撰に擬してものせるよし　尤憚あるよし時の書物奉行脇部甚太夫より沙汰ありければ四場居色競と改題したり　此書に序跋もまた発開の年号を記さゞるにてももとありけむを　此ゆゑに削りたるなるべし　されどなほ体裁をかへざりければにや更に町奉行能勢出雲守より発売を禁ぜられし　梓主平兵衛といへるは軽追放に処せられぬ　かくて製本僅に数十部に満ずして世に稀有の冊子にてありき……」とある

一二四　**傾城百人一首**　洋　合　綴本　一九・三×一三・七
〔著・画〕未詳〔校訂〕三田村鳶魚〔序〕無記名〔刊年・等〕成立元禄十六年（一七〇三）（国総）昭和二年（一九二七）十月二十日　東京　米山堂（非売品）　四十二頁
〔頭尾歌〕「吉原のたんぼの中をわけ行けばわが小袖こそ露でぬれつつ」「□し君□をしあぢきなく□手に物おもふ馬鹿」（□印本文欠）
〔備考〕小倉百首をもじる傾城の狂歌九十九首　上欄に小倉百首をのせる　但し後鳥羽院まで　吉原の挿絵六頁がある　巻末に索引を付ける㊫元本　六巻六冊（国総）「傾城百人一首にも別板あり」（三田村　本書解題　未刊随筆百首第七巻の中　業要集・古今東名所と合綴

一二五　**どうけ百人一首**　和一冊　複製本　二三・五×一六・五
〔別名〕道化百人一首（国総）〔作者・画〕近藤助五郎清春〔題箋〕本うたなをしどうけ百人一首〔柱〕とうけ〔刊年・等〕享保年問刊（国総）大正十四年（一九二五）一月廿八日　稀書複製会　第四期第三回　印行五百部之内　第一一六号　東京　米山堂　二十五丁
〔頭尾歌〕てんち天わううたに「あきの田のかりほすまでにひよりよくわがこともをらくにすごさん」しゆんとくゐん「もゝしりやふるきのしめのきゆるにもなほへはりさくおしめなりけり」
〔備考〕小倉百人一首もじり狂歌　一頁を上下にわかち歌意の絵を書き詞を加えた　巻末に「百人一首とうけ哥　作者近藤介五郎」とある

一二六　**道化百人一首絵抄**　和一冊　一七・五×一三・二
〔編者〕未詳〔柱〕とうけ〔刊年・等〕刊年未詳　十二枚（一丁欠）
〔頭尾歌〕てんぢ天わう「秋の田のかりほすまでにひよりよくわが子どもらをらくにすこさん」しゆんとくいん「もゝしりやふるきのしめのきゆるやもなをへばりさくおしめなりけり」
〔備考〕小倉百人一首もじり狂歌九十二首（八首欠）と絵　見返しに道化百人一首絵抄とあり　富士見西行の像を出す

一二七　〔**どうけ百人一首**〕　和一冊　一七・三×一三・一
〔撰者〕未詳〔柱〕とうけ〔刊年・等〕刊年未詳　十三枚
〔備考〕一一六に同じ　但し歌は百首あるが見返しはない　題箋なく表紙に「古板どうけ百人一首」と書かれてある

一二八　〔**道外百人一首**〕　和一冊　一七・八×一三・三
〔編者〕未詳〔見返し〕新古今三夕のもじり歌と絵　上欄に道外とある〔柱〕道外
〔刊年・等〕刊年未詳　十三丁
〔頭尾歌〕天ちてんわう「秋の田のかりほすまては日よりよくわか子ともらをらくにすこさん」しゆんとくいん「もゝしりやかきのしめのきせるやもなをへはりさくしきしなりけり」

〔備考〕百首と絵

一二九 **どうけ百一人首** 和一冊 一七・四×三・八

〔編者〕未詳〔柱〕どうけ〔刊年・等〕寛政二庚戌歳（一七九〇）八月 江戸 西宮新六板 十二丁

〔備考〕歌は一一八に同じ 巻頭欄外に刊年書林を出し「両国橋八景」を掲げ 各頁四ツ割にして絵を改めた 途中四頁は各人六人を収める

一三〇 **どうけ百人一首** 和一冊 一七・四×二・五

〔編者〕未詳〔見返し〕我三人 柿本人丸 玉津島 山べのあか人の歌及び挿絵〔柱〕どうけ百人〔刊年・等〕刊年未詳 十二丁

〔頭尾歌〕天智天皇「秋の田のかりほすまでに日よりよくわが子どもらをらくにすごさん」じゆんとくいん「もゝしきやふるきのしめのきゆるにもなをへばりさくおしりなりける」

〔備考〕歌一一六に同じ九十二首 但し末尾歌の下句と絵が異る

一三一 **狂歌文茂智登理** 和一冊 二六・四×一八・二

〔別名〕狂歌百人一首 狂歌百千鳥百人一首(国総)〔著者等〕天明老人内匠校 立斎広重画〔刊年・等〕刊年未詳 安政五年刊(一七八五)(国総)五十四枚

〔頭尾歌〕柏唫社千興「夜もすから心うつしてかこちてき月は手にもつ鏡ならねと」宝市亭黄金舛成「こゝろなくそのゝさくらを折人の手ふしを先へまけてやりたし」

〔備考〕百六人各一首の歌と淡彩略画の肖像をのせる 巻頭に狂歌堂真顔 蜀山人赤良 六樹園飯盛 三名家の歌と肖像を出す 頭書には一人の上に二首ずつ狂歌をのせる 巻末には天明入道内匠の歌と肖像がある

一三二 **故人名家狂歌百人一首図絵** 和一冊 二六・一×一八・三

〔撰者〕六樹園〔見返し〕狂歌百人一首 頭書引書目録〔刊年・等〕明治十八年(一八八五)十月 出版人〔東京〕安田恒太郎 発行書林 〔同〕本盛堂等四軒 巻首四丁 本文四十二丁

〔頭尾歌〕蘆辺田鶴丸 別号三蔵楼「花鳥にいまめか覚て是までの朝寝くやしき春の曙」金持丸 別号八瓶園「月のふねこれも兎の手からにや狸寝いりもさせぬ秋の夜」

〔備考〕七十六人の歌各一首と肖像をのせる 巻首に狂歌会集の躰(絵をそえる)詠草書法 狂歌合披講の躰(絵をそえる)狂歌のおこり(六樹園)を出す 頭書に「戯咲歌古調」をかかげる(万葉集以下才蔵集に至る六十六種の古典より引用 その数七百七十余首)『この本は元の題名を「文化新撰狂歌百人一首」文化六年刊(一八〇九)といつた 明治十八年十月東京にて複刻したものは元のまゝの板木を用い外題をかへて「狂歌百人一首図絵」としている』とある(菅)

一三三 **狂歌細画俤百人一首** 和一冊 二五・七×一八・一

〔別名〕面迦計百人一首(国総)〔撰者〕得閑斎繁雅老人 得閑斎茂喬大人補撰 得閑斎砂長大人次撰〔見返し〕狂歌細画俤百人一首 得閑斎三大入撰 春川五七画 書肆 文徴堂 文集堂 文泉堂〔序〕花園少将公燕朝臣 波竜主人・佩香蘭蘭丸〔跋〕和泉国岸和田都頭見堂 調音美〔刊年・等〕文政二歳次己卯(一八一九)秋七月 書肆 林権兵衛等三軒 六十枚(最後の丁付五十丁)

〔頭尾歌〕天智天皇 秋田「朝な夕ないたゝくほしとみやまたの稲葉の雲に露そきらめく 蘭丸」順徳院 禁中「二柱たゝせ給ひし神代よりもゝの石城の動きなき宮 弄花」

〔備考〕百人の歌各一首と絵 巻首に繁雅より茂喬までの歌七十五首と 色刷の絵 上欄に小倉百首のそれぞれに四首づつ俤の歌四百首をかかげる(活)袖珍文庫第二十三編十三種百人一首所収

一三四 **狂歌極彩色百人一首** 和 合綴本 二・三×一五・八

〔撰者〕文々舎〔見返し〕狂歌極彩色百人一首 撰者文々舎 画者葛飾戴斗 岳亭丘山 筆者桑廼門広好 催主葛飾連〔柱〕文〔刊年・等〕刊年未詳 文政二年刊(一八一九)(菅)十九丁

〔頭尾歌〕遷喬亭氷解「海棠の寝かほ斜久良の笑ひ顔にくからぬ子をもてる春雨」熱田呼 続浜入「わすれくさたか種まきて吾妹

子かつれなき胸におひ出にけむ」
〔備考〕三十八人の歌各一首と肖像をのせる（色刷）零本　上欄に初春下毛佐野六催園糸屑より越谷至考庵在貫までの歌百六十四首と絵をおく　狂歌三宝集・狂歌画賛集と合綴

一三五 **狂歌陸奥百歌撰**　和一冊　一九・三×一四・一
〔編者〕千柳亭大人（唐麿）〔画〕東沢
〔別名〕狂歌画像陸奥百歌選（国総）〔見返し〕狂歌画像　美ちの久百歌撰〔柱〕陸奥百歌撰
〔序〕六樹園〔刊年・等〕刊年未詳　文政二年（菅）仙台　池田屋源蔵（芳潤館）五十一枚
〔頭尾歌〕奥細道別号浅竜菴「不老門長生殿は何をしてくらしやすらんおそきはるの日」絲唐麿別号・千柳亭「神つ代のむかしもかくやすめるもの天へとのほる妹か羽このこ」
〔備考〕陸奥の狂歌に名のある百人の歌各一首を集めた　肖像をおきそれに伴う器物等の絵を添える

一三六 **戯場百人一首**　和一冊　一七・八×三・一
〔別名〕小倉狂歌戯場百人一首〔作者〕諫鼓堂尾左丸〔画〕勝川春亭〔柱〕百人
〔序〕御ぞんじの式亭三馬戯題〔跋〕自跋
〔刊年・等〕刊年未詳　成立　文政三年（国総）・江戸鈍々亭（菅）序二丁本文　二十六丁
〔頭尾歌〕天智天皇「吸ものをこぼした人の気のどくさ我か衣手は露にぬれつゝ」順徳院「時代事あたりて金のまうかれば猶あまりあるむかしなりけり」
〔備考〕小倉百首を下句に入れ　芝居をよんだ狂歌百首　これに見合う挿絵を入れる「本書には異板が多い　絵も歌も変りなく序や跋に異同があり　外題に「芝居百人一首」としたものや其他いろいろある」（菅）

一三七 **花くらべ祇園名妓百人一首**　和一冊　三・三×一五・六
〔撰・画〕春川五七〔序〕五七菴・都友・森の家昌三〔跋〕赤山かせを・庚辰の初冬
〔文政三（一八二〇）？〕洛東秋の家葎月
〔刊年・等〕刊年未詳　六十六枚
〔頭尾歌〕万屋みやこ「秋の田の刈穂のいほもいとふまじきみが情の露に濡なば」井筒屋小霜「百敷やふる年月の御ひゐきはなをあまりあるめぐみなりけり」
〔備考〕百二人の歌各一首と肖像をのせる　巻首に「四季のくさ〳〵の花」（歌と句）巻末に京や　まさ等六人の句　鳥羽屋三八等六人の歌をのせる　見返し個所に墨で「春川五七は神谷氏蓬洲と号して小説の著作をなす江戸小石川の人なり文化の頃京都に転住す自ら画き自ら彫刻す　壺桐記　此著作の刊行は文化の末頃ならん」と書入れのある別本がある

一三八 **絵本狂哥百人一首闇夜礫**　写　一冊　三・五×一六・七
〔別名〕どうけ百人一首闇夜礫・闇夜礫（国総）〔著者〕越谷山人〔序〕丙子春日〔文化十三年（一八一六）？〕鱗斎一鮓戯述
〔刊年・等〕天保四（一八三三）刊（国総）
序二丁　本文五十丁
〔頭尾歌〕天智天皇「烽の野に草ふみわけてかるむしに我ころも手はつゆにぬれつゝ」順徳院「親のあるうち気のつかぬ有かたさなほあまりあるむかしなりけり」
〔備考〕狂歌百首　彩色絵入本　巻末に「文政九丁亥年（一八二六）春写之」と書添えてある

一三九 **狂歌百人一首闇夜礫**　写一冊　三・四×一六・三
〔別名〕〔著者〕〔序〕一二八に同じ〔丁数〕五十二丁
〔備考〕歌は一二八と同じ　絵には色彩をつける　巻首に文政拾歳丁亥（一八二七）三月良日　池野氏友宣写とある

一三〇 **道化百人一首闇夜礫**　写一冊　三六×一九・五
一二八狂歌百人一首闇夜礫に同じ　丁数五十丁　彩色絵入本　但し絵は異る

一三一 **狂歌百人一首泥亀農月**　写一冊（仮綴）
三・三×三五・四
一二八狂歌百人一首闇夜礫に同じ　彩色絵入　但し序は異る　丁数三十二丁
〔備考〕成立・宝暦六（一七五六）（国総）

一三二 **御影百人一首**　和一冊　一七・九×二・八
〔別名〕おかげまいり百人一首（国総）

〔柱〕 おかげ百人一首〔刊年・等〕文政十三庚寅年（一八三〇）閏三月新板　浪華　一幹亭蔵　十丁
〔頭尾歌〕 天智天皇「秋の田のかり穂も多く国々のおかげ参りに家内連つゝ」順徳院「百敷やたとき宮居は仰ぎても猶あまりあるみかげ成けり」
〔備考〕 小倉百首のもじり歌百首　見返しに「おかげまいり百人一首」とありかるた（絵）をのせる

一三三 **同行百人一首宿大土佐草**　和一冊　一七・九×一三・二
〔別名〕 御蔭まいり・大土佐艸（国総）
〔作者〕 仙果？〔柱〕大とさくさ〔序〕板元〔扉〕笠三人之像〔刊年・等〕刊年未詳　文政十三年（一八三〇）刊（菅）　東京書肆　神田区　山田藤助　二十丁
〔頭尾歌〕 天智天皇「麦あきのかりほを捨て走り行おかげ参りはあせにぬれつゝ」順徳院「百しぎやふるきにかへる伊勢まゐり猶あまりあるめぐみなりけり」
〔備考〕 小倉百首もじり狂歌　二十八首と絵　上欄に事之起原・宇奴笠戯書尽・いせ参おかげたんか等を出す　序に「百人のうち大かた抜参り仕りこゝには纔出勤仕舛たやうにごらん下さりませう板元敬白」とある　巻首に六生（なま）川の歌と絵等をのせる

一三四 **狂歌劇場百首**　和一冊　三・五×一六
〔撰者〕 芍薬亭長根〔柱〕劇場〔序〕天保三年の秋　自序〔刊年・等〕天保三壬辰（一八三二）仲秋　菅原連蔵　琴樹園二喜　三十七丁
〔頭尾歌〕 芍薬亭撰舞初見物夙ニ戴レ星「星あかりみれは扇の観世水残もとくる春の舞そめ　楽聖菴」花街百首につぎて劇場百首の爪しるし為待るとて「とはにみん此大江戸の花紅葉春秋に富む身にしあらねと　芍薬亭」
〔備考〕 巻頭に「天地一大劇場ならは狂歌もまたひとつの小劇場にこそとて」とある歌は百題五八一首　巻末に堂座　十一首をのせる　色刷挿絵入り

一三五 **戯劇百人一首闇夜礫**　和一冊　一七・七×三
〔別名〕 狂歌百人一首闇夜礫・闇夜礫・どうけ百人一首闇夜礫（国総）　〔著者〕越谷山人〔画工〕眉山竹孫〔見返し〕闇夜礫　戯劇百人一首　新鐫　天保四癸巳（一八三三）孟春改刻　保永堂梓〔柱〕どふけ〔序〕天保四とせ癸巳初春　四方滝水〔跋〕乙ひつし春日（天保六年？）鮮斎鮨戯述
〔刊年・等〕 刊年未詳　江戸　竹内孫八　序二　本文五十　跋二丁
〔頭尾歌〕 天智天皇「秋の野の草ふみわけてかるむしに我衣手は露にぬれつゝ」順徳院「不幸せし親に今さらくりことゝ猶あまりあるむかしなりけり」
〔備考〕 小倉百首の下句をとる狂歌百首これに見合う絵を添えた

一三六 **戯劇百人一首闇夜礫**　和一冊　一七・六×二・八
一三五の後摺本〔見返し〕天保四癸巳春改刻　嘉永元戊申（一八四八）夏再刻　鶴仙堂寿梓　東都書肆　藤屋棟助等三軒

一三七 **戯劇百人一首**　写一冊　一八・一×二・八
一三五を写したもの　彩色絵入本　跋を欠く

一三八 **艸画百人一首**　和二冊　三×一六
〔別名〕 狂歌草画百人一首（国総）・おくら百首狂歌集（見返し）〔編者〕檜園梅明〔見返し〕おくら百首狂歌しふ　完　ひのき園うし撰　右の地紋は玉鬼園主人の珍蔵定家緞子の紋を臨写して因に載せつ　春美亭蔵
〔序〕 天保八年（一八三七）ふみ月　みさとの桂すみまろ〔刊年・等〕刊年未詳　天保九戊戌年（一八三八）十月刊（岸本）　上巻巻首三丁　本文廿八丁　下巻二十三枚（最後の丁付五十一）
〔頭尾歌〕 秋田　京　含翠園「露おける稲わけゆけは夕さへうれしくぬらす袖はありけり」古都　藤木安久楽「佐野（渡）の島真野の都の跡みれはなみたの玉をしくはかりなり」（◉初句野は朱書人にて渡と正してある）
〔備考〕 小倉百人一首の歌意より題をとりこれをかかげて各狂歌をよむ　同じ人一首以上詠んだものもある　小倉百人一首の色紙型を置き　小倉百人一首作者の肖像（草画色刷）を並べる　奥に六歌仙の狂歌をの

せる

一三九 **懐旧小倉百首** 和一冊 三・四×一五・八
〔別名〕狂歌懐旧小倉百首 〔撰者〕寉廻屋更好々亭等 〔見返し〕懐旧小倉百首・八島五岳画・月 鶴廻屋更好々亭撰・花 五七園撰・紅葉 明亭撰・時雨 雪廻屋撰・松猩々園撰 〔序〕天保十まり二とせといふとしの霜ふり月 片木園正俊 〔跋〕天保十二丑年冬至 八島五岳老人 〔刊年・等〕天保十二年季冬（一八四一） 酒壺蔵梓 和漢書籍調進所 北久宝寺町四丁目 塩屋長兵衛 十六丁
〔頭尾歌〕月 鶴廻屋更好々亭撰 夢園花鳥「昔みし秋にかはらす照わたる月は老せぬくすりをやもつ」猩々園「立よれはいのちなかさも忍はれつ硯にも名をかせる松かけ」
〔備考〕六十九人の狂歌各一首 巻首狂歌を合せ百五首をのせる 絵入本

一四〇 **三ケ津百人一首誉競** 初篇 和一冊
三・四×一五
〔別名〕俳優銘々伝三ケ津百人一首誉競 〔国総〕〔撰者〕七文舎鬼笑 〔校合〕並木舎五瓶 〔見返し〕顔見せや鼓におこす都鳥十二の目 家橘 〔柱〕百人 〔序〕七文舎鬼笑 並木舎五瓶 松造庵のあるし梅寿 〔刊年・等〕刊年未詳 文刻堂 序二丁 本文五丁
〔頭尾歌〕市川団十郎 江戸成田屋 天智天皇「成田なるふ動の利益荒事しその芸道に金はふりつゝ 三升」松本幸四郎 江戸高麗屋 元良親王「昔より今またおなじ立敵見に行く人もイヨ高麗屋とて 錦升」
〔備考〕二十首と肖像（色刷）上欄に俳優二十人の銘々伝 巻末に「三都百人一首誉名競二編目録」二へんより五編まで三ケの津不残追々近日出板 文刻堂」とある 外題に「続出版セザル由」との書入れがある

一四一 **蜀山人詠狂歌百人一首** 和一冊 一七・七×三
〔著者〕蜀山人 〔見返し〕狂歌百人一首 全 蜀山人 芸香堂 〔刊年・等〕天保十四年（一八四三）八月 〔大坂〕柏原屋万兵衛 五十丁
〔頭尾歌〕天智天皇「炑の田のかりほの菴の歌がるたとりぞこなつて雪は降りつゝ」順徳院「百色の御歌のとんとおしまいにもゝしきやとは妙に出あつた」
〔備考〕蜀山人の独詠百首 小倉百人一首とその作者を対象に詠んだ狂歌 朱ふりがなの書入れあり 鶴彦（大倉喜八郎）旧蔵本

一四二 **百人一首一之巻** 和一冊 三・二×一六
〔撰者〕燕栗園千穎 〔天保八歿〕 〔柱〕百 〔刊年・等〕刊年未詳（天保頃？）千蓋庵千束庵合梓 十三丁
〔頭尾歌〕春天象「とりかへて海の幸見るこゝちせりなへての山のかすむ春日は 仙台 千条」「庭火たく社の柳しけりあひて月たにさらぬ常やみのよは 佐倉 千蓋」
〔備考〕百人一首一之巻あわせて百九十七首の狂歌 同一人数首よむ者あり 巻首に口絵五丁 上欄に直幹より千船までの略伝と歌をのせる

一四三 **百人一首地口画手本** 和一冊 一六・九×二・五
〔編者〕未詳 〔序〕嘉永五年（一八五二）六月□一筆□ 〔見返し〕百人一首地口画手本 神田松下町三丁目 伊勢屋忠兵衛板 〔刊年・等〕刊年未詳 十七丁
〔頭尾歌〕てんち天わう「ありがたきてんちのめぐみかるいねにわがころもではつゆにぬれつゝ」じゆんとくいん「うらしまがたちかへりくるふるさとはなをあまりあるむかしなりけり」
〔備考〕小倉百首のもじり歌百首と絵をのせる 表紙に一松斎芳宗画とある

一四四 **どうけ百人一首** 和一冊 一七・八×三・四
〔別名〕教歌道化百人一首（国総）〔著者〕勧善堂春水 〔画〕歌川直政 〔序〕自序 〔刊年・等〕嘉永五壬子（一八五二）十月 東都 吉田屋文三郎等七軒 序一丁 本文二十五丁
〔頭尾歌〕天智天皇「広ぶたを前にお酌は手をのばしわが衣手は露にぬれつゝ」順徳院「梅やしき古き軒端の花の香は猶あまりあるむかしなりけり」
〔備考〕小倉百首の下句をとつた狂歌百首と絵

一四五 **どうけ百人一首** 和一冊 一八×二・九
一四四の後摺本 刊年未詳（明治初期？）
発行書肆 大阪 岡田茂兵衛等十一軒

一四六 **狂歌百人一首** 和 合綴本（仮綴） 三三・五×一六・二
〔撰者〕 梅の屋 万栄亭共撰〔画〕一勇斎国芳〔扉〕狂歌百人一首 本町連蔵〔柱〕中〔序〕浅草庵〔刊年・等〕刊年未詳 二十二枚（最後の丁付二十丁）
〔頭尾歌〕 本町側東都本町辺住中井氏「松竹を門にたつるはこそことしちかしき中のやたてなるらん 桃の屋永胤」本町側 一号萬喜亭京釜座竹屋町住 通称若狭屋治兵衛「梅干の露を花より麦わらの笠ぬふ人やもてはやすらん 齢亀雄」
〔備考〕 三十六人の狂歌各一首と肖像 巻首口絵に尾州名古屋竜の屋より綱室員雄までの歌二十首 衣食住狂歌百人一首と合綴

一四七 **衣食住狂歌百人一首** 和 合綴本（仮綴） 三三・五×一六・二
〔別名〕 狂歌百人一首（外）（国総）〔撰者〕梅農屋大人 竜城園主人 万栄亭大人 馬酔木園主人〔刊年・等〕刊年未詳 三十五枚（最後の丁付三十七丁）
〔頭尾歌〕 着衣始「しつけをのちりをひろひてはゝ木をはとらぬあしたも着そはしめせり 春峯」当座「つくはねのこのもかのもに雨もりのつたふ雫の田居の五月雨 善直」
〔備考〕 八三五首 春と夏の部からなる春部梅農屋撰五二四首 夏の部万栄亭撰三〇三首 それぞれに当座四首あり別撰 一人二首よむ者もある ひろく諸国の詠者を撰んだ 狂歌百人一首と合綴

一四八 **狂謌百人一首** 和一冊 三五・二×一七・九
〔撰者〕 緑樹園宗匠 和一園宗匠〔輯者〕六緑園元春〔柱〕狂歌百人一首〔序〕緑樹園元有・七五三の家元春改 御春 緑酔園一罇・雪月堂主人〔跋〕嘉永七年（一八五四）三月 和一園〔刊年・等〕刊年未詳 嘉永七年刊（菅）巻首七丁 本文五十丁 跋一丁
〔頭尾歌〕 三保廼屋不二影「筏士よまてのりゆかむさす棹のしつくもはなの香にほふころ」小歴木舎古幹「梁うた伝つみも残らす流しけりよし野の川に御祓する日は」
〔備考〕 七五三の家御春の依頼で その集めた狂歌を 江戸の緑樹園 堺の和一園に各五十首を撰ばせた百人一首 これには更に讃岐の清香園梅仙 緑桜園花酔の労を得たと輯者元春は云つている（序） 各肖像をのせそれに見合う絵を添えた

一四九 **天明調 文政調 名家一百首** 和一冊 一七・九×三・五
〔編者〕 恋川春町〔序〕梅屋鶴寿〔刊年・等〕安政六己未年（一八五九）三月 恋川蔵梓 二十六丁
〔頭尾歌〕 武家の春といふ事を八十翁天明入道たゝみ「うそをもて敵をはかれる物の具を春はかされるほらと鉄炮 内匠 日本橋箔屋町 本田甚五郎」歌しの門久根「花鳥になり行春を見限りてわらひもくはす帰る鴈かね 久根 鉄炮洲船松町 中島恒右衛門」
〔備考〕 色紙型に書かれた二十三人の狂歌各一首 扉に「今人墨蹟集 狂歌ノ部」とある 随時刊行し 百首にするものか

一五〇 **道外百人一首** 和一冊 一六・二×三
〔作者〕 山東京伝〔見返し〕道外百人一首 全 山東京伝作 東都書林 山静堂梓 万延新刻〔序〕自序〔刊年・等〕刊年未詳 十五丁
〔頭尾歌〕 天智天皇「秋たちてかほどにいねのとれるあてにわが子どもらを露にぬらさず」順徳院「もゝじりやふるきのじめのしまひには猶へばりさくむかしものなり」
〔備考〕 小倉百首もじり狂歌百首と絵 巻首に 職人八景（傘張夜雨以下綿打暮雪まで）の狂歌八首あり 序に「雑劇の打諢に似たりて道外百人一首と号く」とある

一五一 **おどけ百人一首** 和一冊 一六・二×二・一
〔見返し〕 六歌仙形作狂歌〔刊年・等〕刊年未詳 二十四枚
〔頭尾歌〕 天智天皇「あきはてゝおやのゐけんをきかざればこもをかぶりてあめにぬれつゝ」順徳院「もゝしぎやふるきのきばにすをくみしとりでさへしるおやのかうおん」
〔備考〕 小倉百首もじり狂歌百首とこれに見合う絵をのせる 表紙に色刷の絵をおき

左上におどけ百人一首　右下隅に芳梅画とある

一五三 **江越狂歌一人一首**　和一冊　三・三×一五・六

〔輯者〕　山本輪田丸〔画工〕近江之部　一円房・越前之部　西渓〔筆工〕近江之部　真猿・越前之部　一松庵〔序〕自序〔刊年・等〕刊年未詳　京都書林　吉田新兵衛（宝歴―文政　書賈）三十八枚（最後の丁付ヱ二十八丁）

〔頭尾歌〕　淡海大津之部　雪□（亭？）乙立「くるくとめくるつるへのいくつめかぬるみそむらん淀の川水」春川庵羽觴「露むすふ門田の稲の外にまたみいりし月の影もかたふく」

〔備考〕　七十四人の狂歌各一首と肖像をのせる（大津十八首・南越三十一首・福井九首・大野十六首）巻末予告に「江越狂歌一人一首　山本輪田丸輯　後編近刻　前集御詠艸遅来の分後篇に加入仕候　猶思召之御方は来ル霜月限に御詠草御出し可被下候」とある

一五三 **童戯百人一首**　和一冊　一六・一×二一・九

〔著者〕　総生寛（七杉子）〔見返し〕文明開化身主自由之人　七杉子書　惟々堯斎図

〔柱〕　文明開化童戯百人一首〔序〕紀元二千五百三十三年第八月〔明治六年（一八七三）〕自序　〔刊年・等〕刊年未詳　明治六年刊（宮武）　東京　椀屋喜兵衛等十四軒序一本文二十五丁

〔頭尾歌〕　天智天皇「金巾の蝙堀傘を物数奇に我衣手は露にぬれつゝ」順徳院「天地の開闢はしめの神の国猶余りある昔なりけり」

〔備考〕　小倉百首の下句をとり　時世の模容を吐露せる狂歌百首と絵をのせる　一名「百人一酒」「百人一銖」（岸本）

一五四 **開化教訓道戯百人一首**　和一冊　二・八×八・三

〔編者〕　立斎広重〔見返し〕開化教訓道戯百人一首　全　猫々道人序詞　前島和橋校閲　立斎広重編輯　明治十六年三月出版　文盛堂梓〔柱〕開化道戯百人一首〔序〕新橋の猫々道人〔刊年・等〕明治十六年（一八八三）三月十日　編輯人　東京　安藤徳兵衛　出版人　同榊原友吉　発兌人　高崎修助　長島為一郎　序・口絵二丁　本文五十丁

〔頭尾歌〕　天智天皇「夜中にも巡行なさる御役がらわが衣手は露にぬれつゝ」順徳院「入歯してかすほど喰えぬ年のまめ猶あまりあるむかしなりけり」

〔備考〕　序に「道戯百人一首は天明調の古きを温ね　言葉は今様の新しきに依り」とある　夜中巡行　天幕　煉瓦石　写真師　シャツ　ラシャメン　ランプ　など新語が詠まれている　百首　挿絵は二世広重

一五五 **開化教訓道戯百人一首**　和一冊　三・三×八・七

一五四の後摺本　刊年明治十六年四月七日翻刻御届

一五六 **〔絵入狂歌百人一首〕**　写一冊　一九・一×三・七

〔編者〕　未詳〔丁数〕五十丁

〔頭尾歌〕　天智天皇「秋の田のかり穂の稲を背負来て我衣手は露にぬれつゝ」順徳院「代々の分限は蔵に積む金の猶あまりあるむかしなりけり」

〔備考〕　小倉百首もじり狂歌百首と彩色絵　仮表紙に「滑稽和歌集」と書かれてある

一五七 **征露記念滑稽百人一首**　洋一冊　一七・七×一〇・四

〔著者〕　旭桜山人〔扉〕征露記念〔刊年・等〕明治卅七年（一九〇四）十月廿五日三版（初版　明治卅七年五月二日）東京　晴光館書店　一〇〇頁

〔頭尾歌〕　天地震動「案の条出師し令の時を早み我が艦隊は遂に出でつゝ」死んで呉れん「遼東や古き罪過を思ふにも猶あまりある戦死なりけり」

〔備考〕　小倉百首の作者の語呂を写した日露戦争に関する百首　上下段に分け　下段に小倉百首　上段に滑稽和歌をおく　題はこの作者の語呂を似せて作る

一五八 **百人一首　一人百首**　和活一冊　一九・五×一三・四

〔戯作者〕　蒲軒　岩間章風〔跋〕百人一首一人百首の由来　大正十年（一九二一）九月廿九日午後五時認む　東京市　蒲軒　岩間六郎識〔刊年・等〕刊年未詳　二十一頁

〔頭尾歌〕　天智天皇「秋の田に天智天皇いでましてたみもめぐみの露にぬれつゝ」順徳院「もゝしきや軒端のしのぶ茂げりあひ

順徳院の御袖つゆけし」
〔備考〕 狂歌百首　小倉百首各作者の名を詠みこむ　扉の裏に「このうたを読んでわらはむ人もがな笑はれてこそうれしかりけれ　章風」とある

一五九 **狂歌船百首**　和一冊　二・六×八・四
〔撰者〕 蟹の屋老人〔扉〕「をみなくばさてたのしみもなかき夜をとのはねふりにあきくやせん」の歌と絵〔跋〕大正乙丑（十四年・一九二五）霜月　自跋〔刊年・等〕大正十五丙寅年一月元旦「君か代やめてたき趣味の楽しみも千里に頒つ寅年の春」発行者　我楽他宗第十一番札所　航宝山船舶児　印刷所　東京　三田村文房具店印刷部　十丁
〔頭尾歌〕 宝船　四方赤良 蜀山人「長きよのとをの眠りのめざましく数の宝を積んで入船」寄船祝　朱楽菅江「此宿の千歳を船に積あげてかぢはとるとも数はとられじ」
〔備考〕 古来の狂歌集から舟に関する歌百人各一首を輯めた　末に船の狂歌百首を写しをはりて蟹の屋「百船の数ある歌を浪花江のよしあしわけて見る人もがな」の一首を添える

## 4、歌誹・俳句

一六〇 **歌諧百人選**　写二冊　乾坤　二三×一七・三
〔撰者〕 海寿〔序〕無記名　安永四つのとし仲秋の日（一七七五）〔奥書〕上巻弘化二年乙巳（一八四五）初秋　下谷長者町之住　田村有利　七十九歳写・下巻　弘化二年乙巳仲秋　田村多次郎写記〔丁数〕上巻七十九丁　下巻七十四丁
〔頭尾歌〕 大御所吉宗公「請継し国の司の甲斐もなしめくまぬ民に恵るゝ身は」天英院一位尼公「春の夜夢もむすはぬ世の中にたゝやすかれと田鶴なき渡る」
〔備考〕 百人の歌と句　註釈を付ける　本文一面七行ところどころに書入れがある
㊟俳諧叢書　俳人逸話紀行集　俳諧文庫俳諧逸話全集（国総）

一六一 **歌誹百人選**　写一冊上下合綴　三・五×一六・八
〔撰者〕 海寿〔序〕無記名〔奥書〕寛政十一歳次己未（一七九九）冬十一月中浣乞需四灝王母園之所蔵写之　鵜多川漁人現斎・文政元戊寅年（一八一八）晩秋末東海道藤沢駅巴屋孫右衛門方より借求写之　米倉雅元・文政二己卯年（一八一九）四月写之　秋山元直・天保十一子年（一八四〇）夏四月桜井氏より借写　小方太虎・天保十二年丑年（一八四一）春借用十月写終但身寸暇なく永々かゝり返却す　坂本千里書写
〔丁数〕百十丁
〔頭尾歌〕 有徳院殿吉宗公「請つぎし国の司のかひもなしめぐまぬ民にめぐまるゝ身は」宗匠季吟「出来秋や一年ぶりの笑ひ顔」
〔備考〕 本文一面十二行　細書　一六〇と大体同じ　百人の歌（六十一首）句（三十九句）に詳註を加える

一六二 **歌誹百人選**　写三冊　雪月花　二四・六×一七・二
〔撰者〕 海寿〔序〕無記名〔筆者・等〕嘉永五つのとし子の重陽（一八五二）吉井春次郎重正（所持並写）雪四十丁　月四十八丁　花四十八丁
〔備考〕 内容一六〇に同じ　朱書入れあり

一六三 **当世諸家百人一首**　写一冊　二四×一六・九
〔編者〕 馬場文耕〔序〕干時宝暦八寅年（一七五八）孟夏　馬文耕撰〔丁数〕四十二丁
〔頭尾歌〕 大御所吉宗公「請継し国の司の甲斐もなしめくまぬ民にめくまるゝ哉」松葉屋瀬川「きさかたは心の奥と聞からに霞と共に出てなかめん」
〔備考〕 海寿の歌俳百人撰から選んだものか　一六〇に対して　この本は三十四首少く　新に六首を加えられてある　計七十二首に註釈を加えた　註釈はおおむね海寿にしたがう　巻末に「慶応三丁卯五月念八日於相浦谷戸之寓居山中宗陽老よりかり写す」との書入れがある「歌俳百人一首㊟当世諸家百人一首」（国総）とあるが別本である

一六四 **新編歌俳百人一首**　和一冊　一八・二×三
〔撰者〕 柳下亭種員〔柱〕歌俳〔序〕嘉永己酉歳　自序〔刊年・等〕柳下亭種員撰集・天山鵜野為徳書　一陽斎豊国画図・筆耕谷金川・彫工　木邨嘉平　嘉永二己酉年（一八四九）四月発兌　東都　紙屋徳八

序・口絵十丁（色刷）本文五十丁
〔頭尾歌〕 大政大臣兼良公「世におほふ君が御かげにたぐふらし民やすかれと植しわか松」中江藤樹「ちはやふる神の心は月なれやまゐるこゝろのうちにうつらふ」
〔備考〕 百人の歌句と肖像 上欄に略伝をのせる 歌誹百人撰（海寿著）になぞらえて新撰したもの

一六五 **歌俳百人集** 写一冊 三三・二×一六・八
〔編者〕 未詳〔丁数〕目次一丁 本文九十一丁
〔頭尾歌〕 大樹台徳公「おくやまに心を入れて尋ねすはふかきもみじの色を見すまし」後水尾院「はへはたて立てはあゆめと子を思ふ我身につもる老をわすれて」
〔備考〕 九十九人の歌と句 各詠者の略伝を付ける 見返しに「嘉永の末か安政の初に於ける編著なるべし 曲亭馬琴の歿年（嘉永元年）を記し 山東京山の歿年（安政五年）を記さず 版本なき珍書なり」との書入れがある 又別人の書入れで「外骨翁の識語なり」とある

一六六 **歌俳百人伝** 和活一冊 一八・二×一三・五
〔著者〕 海寿〔序〕菊廼家東籬・海寿翁
〔刊年・等〕 明治廿五年（一八九二）十月再版（明治廿五年六月七日初版）編輯人 小石川区 足立庚吉 発行所 日本橋区 今古堂 百五十九頁
〔頭尾歌〕 「請つきし国の司のかひもなしめくまぬ民に恵まるゝ身は 贈大相国吉宗公」「出来穐や一年ふりの笑ひ顔 北村季吟」
〔備考〕 百人の歌と句を集め 略解を付ける

一六七 **祇園誉素人一首**（よいとい ふはくしん） 和一冊 三・三×一五
〔別名〕 誉素人一首（国総）〔序〕享和第三癸亥のとし 青陽山人〔刊年・等〕享和三亥（一八〇三）春 一理軒 七十丁 帙入
〔頭尾歌〕 天智天皇「秋の田のかり穂ぬふてふ金糸かな 井のうへやそ□」順徳院「百敷やふるきを菊の雛祭 あたらしや小鶴」
〔備考〕 もじり狂句百句をのせ挿絵を添える 巻首に一力・祇井筒・三升や他の家号を出す この裏に女郎・琴芸子・歌げい子・舞子・浄るり芸子など短冊で部分けをする 巻末に「余興三十六歌仙」（但し句は三十四句）刊年左に「狂歌花の大寄前編にもれたる妓婦を悉く似面二画き狂歌を題し追而さし出し申し候」とある また（上巻のみ？）壬生忠見「春日野の草や萠なん花の頃 さくら井やはん」まで六十四丁の別本がある

一六八 **絵本小倉百句** 和一冊 三・一×一六・二
〔著者〕 市川白猿〔画工〕北斎辰政〔彫刻〕山口辰之助〔序〕反古菴白猿述〔刊年・等〕享和三癸亥歳（一八〇三）孟春 江戸今福屋□□等三軒 序一丁・本文二十五丁・他六丁
〔頭尾句〕 天智天皇「出来秋や誰衣手も麩だらけ」順徳院「あさ漬や古き入歯のしのぶにも」
〔備考〕 小倉になぞらえた百句とそれにちなんだ絵をのせる 扉裏に「小倉百句鈍作句撰」とある 後に百四の句と狂歌八首

一六九 **俳諧百人一首** 和一冊 一九・七×一三・四
〔編者〕 鍋牛庵素郷〔序〕惟草庵 天保十（一八三九）大渕献のとし自序〔刊年・等〕刊年未詳 巻首五丁 本文二十五丁 他四丁
〔頭尾句〕 天智天皇「ふみこむた露を刈穂のおもみかな 松平秀利子」順徳院「あまりある月やむかしや夜の秋 葛霞庵句光」
〔備考〕 百人各一句と肖像 上欄に小倉百首の作者をかかげる 後に蒼軋以下貞斎子に至る七十六句を付ける

一七〇 **俳諧百一集** 和一冊 一六・四×一一・八
〔序〕 嘉永庚戌〔三年（一八五〇）十月十二日 槐庵大夢誌〔像画〕清賞堂華雄〔刊年・等〕刊年未詳 嘉永戊申年〔元年（一八四八）〕刊（岸本）明和二年版・嘉永三年版（国総）加州金沢 八尾屋喜兵衛等三軒 五十丁
〔頭尾句〕 はせを「古池やかはつ飛こむ水の音」麦林「かんこ鳥われもさひしいか飛て行」
〔備考〕 百人各一句と肖像をのせる 彫工 藤田万甫 石田半居とある

一七一 **羽大泉古今俳諧百人一集** 和一冊 複製本
一六・六×一一・六
〔編者〕弭間淡遊〔序〕嘉ひ永き七つのとし寅のさ月なりけり（一八五四）自序〔刊年・等〕成立嘉永年間（国総）昭和十年（一九三五）十月廿五日 鶴岡市 荘内史料研究会 序一丁 本文五十丁 他三丁
〔頭尾句〕芭蕉翁「雲のみねいくつ崩れて月の山」淡遊「そこらまて今朝は来にけり山の雪」
〔備考〕芭蕉以下その地につたわった正句を撰び 百人一集となすと序にある 百人一句 巻末に各作者の本名をのせる

一七二 **俳人百家撰** 和一冊 一七・九×二三・一
〔輯者〕緑亭川柳〔画〕雄斎国輝〔直写〕楓園玄魚〔彫工〕江川仙太郎〔柱〕百俳
〔序〕嘉永八卯の孟春 自序〔刊年・等〕嘉永八乙卯歳次（安政二年 一八五五）孟春 東都書房 甘泉堂 和泉屋市兵衛板
六十一丁（但し最後の丁付六十丁）
〔頭尾句〕荒木田守武「青柳の眉かく岸のひたいかな」大嶋蓼太「たましいの入ものひとつ種ふくべ」
〔備考〕俳人百人各一句と肖像 頭書に略伝をのせる 巻首十一丁 色刷口絵（芭蕉庵 先哲六俳 芭蕉十哲 古筆手鑑等）㊟俳諧文庫俳諧逸話全集（国総）

一七三 **誹諧歌一人一首** 初編 和一冊 三・七×一五・七
〔撰者〕檜園大人他〔見返し〕俳諧歌一人一首初編完 春夏 檜園大人 六橋園大人撰 秋冬 燕栗園大人 花柳園大人撰 恋雑 至清堂大人 柏唸社大人撰 揮毫 瑞園先生 繍像 一梅斎芳晴画 彫工 鈴木花井刀会主 燕門総連 拍木総連 文会堂蔵板
〔序〕安政二年二月 燕栗園千寿〔刊年・等〕安政二年乙卯（一八五五）正月刻成 製本所 文会堂 三十二丁
〔頭尾歌〕春夏之部 檜園 六橋園撰 立春「あら玉のとしまの海に春立てかすむ東の大日枝の山 千寿」恋襍之部 至清堂 柏唸社撰 祝「影うつる菊の下水いくよ経て老の浪よるしわを見すらん 万盛」
〔備考〕春夏の歌四十九首 秋冬の歌八十一首 恋雑の歌四十五首（計一七五首）一人数首をよむ 巻首に松千代彦より茂木千興に至る三十六人各一首の歌と肖像をのせる 他二〇八首

一七四 **今世百々人集** 和二冊上・下 一八・四×三・四
〔見返し〕俳諧百々人集〔序〕八巣のある し謝徳〔跋〕万延元庚申（一八六〇）夏に春岳道人〔刊年・等〕刊年未詳 上巻 序二丁 本文五十一丁（但し最後の丁付五十丁）下巻 巻首十五丁 五十一丁より百丁 跋一丁
〔頭尾句〕篤の戸希栄「吹出したすかたや風に笑ふ山」八巣謝徳「往還に鶏なくや皐月晴」
〔備考〕上巻百二の句と肖像 下巻百二十八人の句と肖像

一七五 **自作俳諧芸娼略伝百人集** 和一冊 三×八・七
〔編著者〕山口近太朗〔見返し〕自作俳諧芸婚略伝百人集 此書は府下一粒襟の芸妓娼妓等の伝記を委しく記せし珍書なり 賀喜堂主人編述 立斎先生画図 広栄堂蔵版〔口絵〕広重筆 新吉原仲の町桜花満開の図・根津廓の図（色刷）〔刊年・等〕明治十六年（一八八三）五月 東京 田島初太郎等二軒
口絵・目録三丁 本文五十丁 附録一丁
〔頭尾句〕「粧ひや女斗りのうたかるた 大文字楼内 九重」「おしろいの隣座敷や紅の花 日本ばし福助」
〔備考〕百人各一句と肖像 頭書に各略伝をのせる 頭書終りに「編者白ス此百人集て漏れたるは近々続編にて御覧ニ入候」とある 巻末に附録を付ける

一七六 **今世百人一首見立句合** 和一冊 一六×一一・七
〔扉〕芭蕉翁追福 今世百人一首見立句合 催主「鹿の子連」の朱印〔刊年・等〕干時明治二十一年（一八八八）四月十五日石井雄笠宅ニ於テ開巻 集句五千余章 十九丁
〔頭尾句〕武日野 鶴亀 三十年「花よりも葉さくらの世は静なる」安松 朝野「一言は七世の石よ苔の花」
〔備考〕各頁に枠をとり 三人づつの肖像及び句を収めた 百人各一句 巻末に梅者友賀他四十の句を付ける

一七七 **明治新撰俳諧百人一首** 和一冊 三・六×一五・九

〔編者〕田中茂稲〔見返し〕晋雪菴柳崖編　老鼠堂永機校　明治新撰俳諧百人一首　東京　樫風吟社蔵版〔序〕庚子弥生　七十翁？　永機〔跋〕晋雪菴のあるし黄斎晋柳子〔刊年・等〕明治三十三年（一九〇〇）六月七日　東京市　市川惣四郎　序二丁　本文　他五十二丁（但し最後の丁付五十丁）〔頭尾句〕芭蕉庵青山（田中光顕）「殊更にけふは招くや枯尾花」杙古鐘（杉孫七郎）「行鶴の声大空にきこえ鳧」〔備考〕百人各一句と肖像（色刷）各丁頭書に俳句三句あり　のどに作者の住所・肩書・本名などを示す

一七八　**俳諧百人一首集**　和一冊　二四×一六・八〔撰者〕星喜庵北因〔刊年・等〕刊年未詳　五十一丁〔頭尾句〕麻布之住　竹楽舘葵昔子「常に聞鐘の音ながら秋の暮」麻布飯倉廼人　具兄庵花暁「朝露をとなりへわける菖蒲かな」〔備考〕百人の句　各一句と肖像をのせる

一七九　**俳諧絵入百人一集**　前編　和一冊　三・五×一五・八〔編者〕翁堂夜来〔校合并画〕楚堂〔序〕自序〔刊年・等〕刊年未詳　三十六丁〔頭尾句〕曙山居　辰角「霜さえのするや鷗の居る処」花優「いふ事のなかれ桜の夜のうち」〔備考〕題箋わずかに「前編」とよめる　五十六人の句　各一句を集め肖像をかかげる　巻末にその住所　本名を出し　出版予告に「俳諧百人一集后編近刻」とある　頭書に挿絵俳諧等をのせる

一八〇　**〔発句百人一首〕**　和一冊　三・九×一五・八〔撰・編者〕未詳〔刊年・等〕刊年未詳　巻首二丁　本文五十丁〔頭尾句〕祖神「夕顔や秋はいろ〳〵の瓢かな」良台「日をふるもはやしうつらふ百日紅」〔備考〕古今の秀句一百首　各肖像をかかげる　題箋欠　表紙に「発句百人一首」との書入れがある

一八一　**故人百一句之内**　写一冊　二五・八×一七・六〔撰者〕未詳〔丁数〕十七丁〔頭尾句〕芭蕉「古池や蛙飛こむ水の音」秋之坊「月夜にも闇にもならす雪吹（吹雪？）かな」〔備考〕三十四句に肖像をのせ句の意を添える　巻末に「佐藤正時写之　維時十三歳」との書入れがある

## 5、漢詩・英訳・その他

一八三　**小倉百首名歌訳詩**　和一冊　一七・七×一〇・九〔著者〕原景忠〔校〕三上七十郎〔柱〕名歌訳詩〔序〕宝暦壬午（十二年・一七六二）夏　丹陽園城近藤素安・宝暦壬午夏四月　丹陽園城南東湖渉忠恕・同年春三月　丹陽園城高義山陰之少隠春秋斎原景忠江山叟識〔跋〕宝暦壬午春三月壬戌之日　自跋・癸未（十三年）夏四月既望　鶴皐〔刊年・等〕明治十四年（一八八一）十一月二十日校兼出版人　愛知県　三上七十郎　序・例言八丁　本文二十八丁　跋三丁〔頭尾詩〕天智天皇「静護二稲一粱二　坐二艸一堂秋深田一疇気荒一凉可レ憐雙一袖凄一々露転似二涙一痕濺二万一行一」順徳院「行一殿寝一園古三歳一時一寒炯哀一艸遶二丹一墀一愍一懃追一憶前一朝事涙濺二万一機一嘆二変一衰一」〔備考〕小倉百首を七言絶句に訳したもの

一八三　**華和合珠百人一首**　和一冊　一六・三×一一・三〔著者〕衡山人以徳〔柱〕合珠　百人一首〔序〕癸巳年秋九月下院　□人陸元譲識・安永二癸巳抄烋日　自序〔跋〕癸己暮秋　図徴窺録〔刊年・等〕安永三年甲午正月（一七七四）東都　雁金屋義助寿梓　四十四丁〔頭尾歌〕天智天皇「公私田熟幽風年村女野歌八月天総為二借廬侵一雨露一夜来沾レ袂有レ誰憐」順徳院「五緯照二京畿一千秋帝王都尚余麦秀感終奈二古今殊一」〔備考〕小倉百人一首を対訳し漢詩を作る　五言絶六十九首　七言絶三十一首　附録に「題二七小町一」の漢詩をのせる

一八四　**寄言百人一首**　和一冊　一六・二×一〔撰者〕橘維嶽〔柱〕寄言〔序〕自序〔刊年・等〕安永三甲午（一七七四）午歳新刊　大坂　石原茂兵衛発行　序二　本文二十二丁

〔頭尾歌〕 憫レ農 天智天皇 アキノタノ 「秋風禾黍熟刈得荷レ月帰レ一作ニ星帰一 戴苫廬多ニ夜露一可レ霑ニ野老衣ニ」 寓意 順徳院モヽシギヤ 「護艸種レ庭偃苔痕上レ階移往時不レ堪レ忍何有ニ侍臣知ニ」

〔備考〕 小倉百首の初句と氏名を欄外に出し詩をよせたもの百詩 奥に「海部有図章記号無是者皆属贋本」とあり検印を捺す

一八五 **皇朝詠史百首** 和活一冊 一八・八×一三

〔著者〕 三河喜久治 〔題詞〕 癸巳初夏 東京府 石川浄嵒題 〔跋〕 明治廿六年（一八九三）七月十四日夜書之 矢野静廬・同年七月念六日 常陸 吉田耕雲 東京・文林閣評同年八月一日 東京鶴汀妄言 〔刊年・等〕 刊年未詳 竜野活版所 通文舎印行 二十三頁 非売品

〔頭尾歌〕 武内宿禰「遐齢三百是仙翁 鬚髪表来純白忠 右挈左提終始一 五朝元老見斯公」 細川忠興妻「苦心守邸殞其身 奇節終能感動人 請見一門芳臭在 女為貞婦父奸臣」

〔備考〕 日本史上の著名百人を選び各人を詠じた漢詩百詩をのせる

一八六 **百人一首** 和一冊 一三・一×一五・六

〔撰者〕 横川叟景三 〔刊年・等〕 明治四十二年（一九〇九）二月一日 東京 民友社出版部 十二丁 五七頁

〔頭尾詩〕 応制三山 絶海「熊野峯前徐福祠満山薬草両余肥只今海上波濤穏万里好風須早帰」 応制行基 輝春「大土由来苦海航度生為急出扶桑王畿四十九名刹突兀連雲数百霜」

〔備考〕 京五山僧九十九人の漢詩 各一詩写本で伝はつたものを写真石版にしてのせる 後に解題「百人小伝」（但し九十九人）を付ける 扉に「是書刊行三百部之内第百号 明治四十二年二月一日 蘇峰学人朱印」との書入れがある

一八七 **百雄魂** 和活一冊 一五・九×一一・九

〔著者〕 長島万里 〔序〕 自序 〔刊年・等〕 昭和三年（一九二八）一月三日 東京 長島秀麿 三四頁

〔頭尾詩〕 日本武尊「王家非有虎賁兵 偏頼天威猷粛清 北狄西戎無不服 偉哉日本武尊名」 東郷元帥「艨艟蔽海決雄雌 皇国存亡在此時 謀略如神虜軍滅 檣頭高掲日章旗」

〔備考〕 日本史上に残る者の中百人を選び各人を賛し 詠じた漢詩百詩をあつめた

一八八 **新上毛百人絶句** 和活一冊 一八×一三

〔選者〕 松村琴荘 〔題字〕 鳳岡 〔題句〕 昭和己巳夏日（昭和四年）東山道人・昭和庚午八月 上毛郷土史研究会識 〔跋〕 琴荘芳（絶句） 〔刊年・等〕 昭和五年（一九三〇）八月十五日 前橋市 上毛郷土史研究会 巻首六頁 本文四十一頁 百作家小伝他十九頁

〔頭尾句〕 恭奉宸題賦菊花盛 五峯 高林寛「凛然晩節壓高秋 除却淵明無匹儔 一自此花登禁苑 万紅千紫尽低頭」 詠上野国覚堂 豊国義孝「豊尊為鎮武尊征留得当年督府名 豈啻三山兼九牧 闔州多見古墳塋」

〔備考〕 上毛に生を受ける者百人の絶句各一句

一八九 **一人百首絶句集** 和孔一冊 一三・二×一五・八

〔著者〕 吉成白鵞 〔評〕 対南岡本 〔跋〕 甲戌（昭和九？）対南田妟批 〔刊年・等〕 刊年未詳 徳島市 一成社印刷 三十六頁

〔備考〕 小倉百首を七言絶句に訳した

一九〇 **小倉百首七絶** 和活一冊 九・一×一一・五

〔著者〕 成蹊三宅光華 〔序〕 昭和十一年七月自序 〔刊年・等〕 昭和十一年（一九三六）七月十八日 大阪市 十光社出版部 二十四枚

〔備考〕 小倉百首を七言絶句に訳したもの附録「蕉翁句五絶」

一九一 **小倉百首詩** 和活一冊 一三・七×一九・七

〔著者〕 片山喜之助 〔題字〕 石橋雲来・春日井柳堂・田譲山・本郷栗州・若生形山・中沢庭柯・野村忠恕 〔題画〕 赤井竜民・三井飯山田松鶴・安田栗郷 〔序文〕 昭和三年二月 久保天随・昭和三年六月念三 八十六翁 桜井勉・昭和丙子春三月 丹波処子 松井拳堂・自序 〔跋〕 昭和丙子初秋 嗣子片山莞爾 〔刊年・等〕 昭和十一年（一九三六）十月十五日 兵庫県 片山莞爾

〔備考〕小倉百首を七言絶句に訳したもの

一九二 **濃飛百家絶句**　和活一冊　三・五×一四・三
〔編者〕伊藤信〔序〕昭和丁丑（十二年）五月　自序〔刊年・等〕昭和十二年（一九三七）六月十日　岐阜市　藍水同声吟社
巻首八頁　本文八十三頁
〔頭尾句〕玉置松石　述懐「九十重齢万慮空　人生且托結跏中　一心唯恨難安息　畢竟丹田力未豊」大野夢庵　咏白髪「木葉飛時草又枯　何来乾雪満頭顱　痴情不復対菱鏡怯見今吾非故吾」
〔備考〕濃飛百十八家の絶句　五百十七首

一九三 **漢訳小倉百首**　洋一冊　三・五×一五
〔著者〕佐伯仙之助〔序〕昭和庚寅桃花節（昭和二十五）煙厓老人撰・昭和三十年二月十一日　自序〔跋〕昭和二十九年初秋月明の下にて　辰知　阿部暢太郎・原安三郎
〔刊年・等〕昭和三十年（一九五五）四月十日　佐伯仙之助著作刊行会　二一三頁
〔頭尾歌〕天智天皇「秋稼恵蘇宿編茅補屋疎宵々露華白衣上自溥如」順徳院「宸殿帰荒廃宮垣雑草生追懐聖朝事今日若為情」
〔備考〕小倉百人首小解・索引（上句索引）勅撰集別索引をつける

一九四 **英訳百人一首**　洋一冊　一八・九×一三・七
〔英訳者〕エフ　ヴ井　ヂッキンス〔翻刻者〕多田経吉〔刊年・等〕明治廿五年（一八九二）十月二十日〔東京〕多田経吉　十五頁
〔備考〕小倉百人一首の英訳

一九五 **英訳百人一首**　附註釈　和活一冊　三・一×一五
〔英訳者〕エフ　ヴヰ　ヂッキンス（F. V. Dickins）〔註釈者〕松浦与三松
〔刊年・等〕明治三十一年（一八九八）十二月廿五日　東京　福島書店　一〇一頁
〔備考〕小倉百人一首の英訳　註釈を付け挿絵を入れる　巻頭に紫式部の歌と肖像（彩色）をのせる

一九六 **英訳百人一首**　洋一冊　三×一五・一
HYAKUNIN-ISSHIU (single songs of a hundred poets)
Literal translations into English with renderings according to the original metre, by Clay MacCauley, A. M. The Asiatic society of Japan, Tokyo. December, 1899. 152p.
(Transactions of the Asiatic Society of Japan vol. XXVII : part IV)
〔備考〕小倉百人一首の英訳

一九七 **英訳百人一首**　洋一冊　一七・二×一一・六
A HUNDRED VERSES FROM OLD JAPAN
Being a Translation of The HYAKUNIN-ISSHIU BY WILIAM N. PORTER
Oxford Clarendon press. 1909. 220 p.
〔備考〕小倉百人一首の英訳　各歌に挿絵をのせる　二一八頁　稲巌荘文庫旧蔵本

一九八 **英和対照百人一首解説**　洋一冊　一八・六×一三・二
〔著者〕吉田竜英〔刊年・等〕昭和十六年（一九四一）十二月十五日　東京　青梧堂
一〇八頁
〔備考〕小倉百人一首の英訳　各歌に肖像または絵を添える

一九九 **英訳歌加留多**　洋一冊　三・六×一六・六
〔訳者〕安田建〔序〕一九四八（昭和二十三）五月十五日 Edmund Blunden〔刊年・等〕昭和二十三年十月二十日　東京　鎌倉文庫　五〇頁
〔備考〕小倉百首の英訳　奥付には「歌カルタ百人一首」とある　扉に「大阪　毎日出版文化賞本第五十二冊」の票を添付

二〇〇 **英訳百人一首**　洋一冊　一八・一×三
〔訳者〕本多平八郎〔序〕一九五六年（昭和三十一年）自序〔刊年・等〕昭和三十二年十二月十日再版　東京　北星堂書店　一〇四頁
〔備考〕小倉百人一首の英訳　口絵に色刷でカルタ読札　取札をのせる

二〇一 **英独対訳小倉百首新釈**　洋一冊　三〇・三×二
〔著者・等〕佐藤芝峰（重治）芳賀矢一校訂〔序〕明治三十七年十一月下旬　藤岡東圃しるす・同年自序〔刊年・等〕明治三十七年（一九〇四）十二月七日　東京　本郷書院　一九八頁
〔備考〕訳のほかに著者の鑑賞表現等を記す

二〇三 HYAKUNIN ISSYU　洋一冊　一五・二×九

〔著者〕土岐善麿〔序〕大正六年一月　自序〔刊年・等〕大正六年（一九一七）三月二十日　東京　日本のローマ字社　一三七頁　Akebono Bunko, 2 no Maki

〔備考〕小倉百首　歌意　出典　各詠者の略伝などをローマ字を以てのせる　巻末に「おぼえがき」「よみびとのみだし」「かみのくのみだし」「しものくのみだし」を添える

二〇三 **今日歌白猿一首抄**　和一冊　一八・三×三・八

〔別名〕今日歌白猿一首（国総）〔編者〕立川焉馬（初代）〔序〕自序〔跋〕四方歌垣真顔〔刊年・等〕維時寛政十一己未（一七九九）孟春　東都書林　江戸　上総屋利兵衛版　五十丁

〔頭尾歌〕「としよりの鳴呼つがもなくねられねば夜の目もあはず目ぱちくくく」「桃園にぎおん豆腐の酒もりはさて　□　羽てうひぎりつげ」

〔備考〕白猿自作狂歌三十五首・白猿口上顔見勢演説誉辞（自得菴花咲翁）・白猿口上狂歌賛詞ほか白猿支援の歌文をのせる　挿絵は国政・春好・春英など

二〇四 **今人狂歌五十人一首**　和一冊　二五・六×一八・四

〔撰者〕山本輪田九〔見返し〕今人狂歌五十人一首　山本輪田丸撰輯　詞海斎蔵梓

〔刊年・等〕刊年未詳　文栄堂蔵版　阪府書林　前川善兵衛　〔伊丹屋善兵衛（天明



—大正　書賈）二十六丁

〔頭尾歌〕栗流舎橋定「粟は野にすたく蛙の合戦もえては深田へ落やしぬらん」山本輪田丸「いはぬ色がいふにまさりて道灌を歌よみにせし山吹の花」

〔備考〕五十人の狂歌各一首と肖像をのせる　巻頭に南都より大形の墨禁裏へ奉るとて聞　貞柳「月ならて雲の上まてすみ登るこれはいかなるゆゑん成らん」ほか、繁雅（山田）の一首がある

二〇五 **川柳百人一首**　和一冊　一七・八×二・七

〔編者〕三箱〔校〕四世川柳〔画〕歌川国直〔序〕松歌〔刊年・等〕刊年未詳　湯島天神門前町　本屋友治郎（天保　江戸〔書賈〕）等二軒　序一　本文五十丁

〔頭尾歌〕狂句元祖四世川柳「夜学にふけて埋火もほたる程」八十七翁文日堂礫川「みなもとは月からうかむ物語」

〔備考〕狂句百人一句　十一丁に補筆あり　各頁一人　句と肖像をのせる　書肆名右に「他国四名　天保四年トアリ後百家仙ハ五十八年目也」との書入れがある「俳風狂句百人集」の改題本（国総）

二〇六 **どうけ百人一首**　和一冊　一七・七×二・七

〔作者〕十返舎一九〔見返し〕天保甲辰再版　上総屋久蔵梓〔柱〕かざい〔序〕醫の寿々加述〔刊年・等〕天保甲辰歳〔十五年・（一八四四）〕難波町　上総屋久蔵版　十丁

〔頭尾歌〕三升焚釜鳴「やはらかしこはしとこゞといふ人はそのみこめくふむしとしらずや」大食椀飯継「とにかくにひもじきはらはさとられずほんらいくふでもつたよの中」

〔備考〕序に「世帯道具の心なきものに寄て教詠をしるし児童をして道を求めるの一助とす……」とある　狂歌四十首肖像の顔は釜　鍋　土瓶など世帯道具　主として台所道具をのせる　上段には一面六個の図を出し「青物尽地口」「鳥づくし地口」「獣尽前句集」「虫尽前句集」を出す　仮表紙に「台所百人一首」と書かれた別本がある

二〇七 **よしこの百人一首**　初編　和一冊　一七・五×二・八

〔別名〕艶競百人一首（岸本）〔校訂〕玉屋玉助〔見返し〕みやこ島はら芸子大よせ　玉栄堂梓行〔序〕庚戌秋（嘉永三（岸本））　玉屋玉助〔刊年・等〕刊年未詳　京　墨屋小兵衛等三軒　二十一丁

〔頭尾歌〕桔梗屋千賀鶴「蛟帳は宵からつらせておいてふたりしてきくほとときす」木津や歌鶴「柳や桜に心はちらぬぬしにまさった花はない」

〔備考〕百人のよしこの百首　巻末に「柳街の中に名高き美色妙芸の歌妓此余になをあまたありこゝに蘭の秀たる菊のかくはしきのみを挙ざるは二篇三篇にいたりてさびしからん事を恐れてなり見む人よろしく察

してつぎ〳〵の巻を待玉へと玉栄堂主人いふ」とある　巻頭に分題　玉助等三人の歌と　思案橋の絵をのせる

三〇八　**よしこの百人一首**　初編　和一冊　一六・二×二二〇七に同じ　但し歌は同じであるが作者名及び店名に出入がある　巻首見開き一丁に泉兆画　色刷絵に「春の夜のやみはあやなし梅の花色こそみえねこやはかくるゝ」の歌がある　序・丁数を欠く

三〇九　**都々一ぶし小倉百人**　和一冊　一六・八×二・三〔別名〕都々一百人一首（宮武）〔作者〕玉杓子〔画〕国麻呂（岸本）〔序〕梓元にかはりて玉杓子〔刊年・等〕刊年未詳　嘉永頃（岸本）　十五枚（最後の丁付十六丁）

〔頭尾歌〕「秋の田の雁はくれどもたよりはきかずわたしや涙のつゆにぬれ」後鳥羽院「あぢきなき世に身を息さいとおもふはおまへがあればこそ」

〔備考〕小倉百首をもじつた都々一　九十三首　一頁に三首　下に挿絵を入れる

三一〇　**百人小倉どゞ一**　和　合綴本　一七・二×二・一〔作者〕未詳〔見返し〕しんはんどゞいつ本所亀沢町馬場本伊〔柱〕百人〔刊年・等〕刊年未詳　十一丁

〔頭尾歌〕天じてんわう「烟の田のかりはくれ共たよりは聞ずわたしや涙の露に濡」ふじはらのさねかたあそん「私や伊吹の灸ではないがもゆる思ひに身を焦す」

〔備考〕小倉百首もしりどゞ一　五十一首挿絵を付ける「どゞいつ大一座初編」と合綴

三一一　**百人一首小倉都々一**　写一冊（仮綴）一八・九×一三・八

〔作者・等〕未詳　二十四丁

〔頭尾歌〕天智天皇「小田のかりほにふくとまよりも荒いお前のすて言葉」須徳院「もゝしきや古き希子をかさねぎしても冬の夜風は身に余る」

〔備考〕小倉百首をもじる都々一百首　巻末に「右は明治二十二年五月　写之平しま氏」とあり　歌二首を添える

三一二　**新彫刻遊里奇百人一衆**　於登計□□〔撰〕青二斎浮輔　大万軒其来〔刊年・等〕大坂　塩善板?　一枚

〔頭尾歌〕全盛典情「松の位のかりそめながらはりつよくわれこのみてはついにぬれつゝ」悲行煎「おやかたのしかへきくなりあすの日にちよと入こんで手づけとるらん」

〔備考〕一枚物　かるた　短冊　扇面などの型に各一首ずつ三十一首をのせ　絵をそえる

三一三　**百人一首地口絵手本**　和二巻二冊　一七・四×一・六

〔著者〕梅亭樵父〔柱〕上巻百人初　下巻百人二〔序〕自序〔刊年・等〕刊年未詳

上巻二十八丁（但し二十丁の次に二十丁とあるため巻末には二十七丁と記されてある）下巻二十七丁

〔頭尾歌〕わが衣手はつゆにぬれつゝ　天智天皇「婆々子のうでを杖に伴れつゝ」なほあまりあるむかしなりけり　順徳院「菜もうまみある仕出しなりけり」

〔備考〕小倉百人一首の下句をもじつた地口　地口の意味をとつた挿絵を添える　一頁一人　元題箋欠　書題箋「地口百人一首」とある

三一四　**百人一首地口絵手本**　和一冊　一七・八×三二一三の第二巻に同じ　但し二一三の柱には百人とあるがこれにはない〔刊年・等〕刊年未詳　芳潤堂・須原屋源助（江戸文政以後・書賈）等二軒　二十七丁

三一五　**馬鹿三人酒づくしきやうくん**　和一冊一八・九×一三・五

〔編者〕未詳〔刊年・等〕刊年未詳　馬喰町三丁目　吉田屋小吉板　三丁

〔頭尾歌〕てんぢ天わう「あきれ田の酒ほどつのる物はなしわが心手にばかにのめつゝ」じゆんとくいん「もゝ酒やふるきのみやをかぞふればなをあまりあるい酒なりけり」

〔備考〕巻頭に「三十六歌仙」とある　小倉百首のもじり狂歌　三十六首と絵

三一六　**近世殉国一人一首伝**　和四巻合一冊　一八・二×一三・七

〔編者〕城兼文〔柱〕殉国一人一首伝

〔序〕明治己巳之初冬（二年）自序〔跋〕

明治二稔己巳初冬　青雲閣主人識〔刊年・等〕明治二歳己巳（一八六九）初冬　城氏活版　百三十六丁
〔頭尾歌〕安政戊午変厄難之徒　贈大納言源斎昭郷　寺を廃して「今よりはこゝろのとかに花を見んゆふくれつくる鐘しなければ」富山四郎太忠全　懐中のたゝみ紙に書置たりし歌「から人は死してそ止まめ我はまたなゝ世をかけて国につくさん」
〔備考〕殉国の士　二七七名の詩歌と略伝

二七 **千百人一首**　和二冊　上・下　三三・三×一六・四
〔別名〕言幸舎中千百人一首（国総）〔著者〕鬼島（富樫）広蔭〔柱〕千百人一首〔序〕安政四年（一八五七）仲秋　権中納言光政・安政三年四月　自序　男広厚書〔刊年・等〕刊年未詳　尾府　菱屋久兵衛　上巻序六丁　本文四十八丁　下巻四十六丁
〔頭尾歌〕春歌　立春　正衡　伊勢乗名　服部石見「のとけさをまつもろこしはしらま弓はるたちそむる日の本の空」幸遇太平世広厚クハナ富樫泉「みたれこしよゝのふるみちふみ見るもをさまれる世にあへはなりけり」
〔備考〕広蔭の門人の歌千百首　巻末に言幸舎塊老翁著述書目二丁（これらの書について　名古屋渡辺忠顕誌がある）

二八 **小倉都々逸百首**　和一冊　二・八×一八・五
〔編者〕唐沢久蔵〔見返し〕小倉都々逸百首
一真斎国忠ゑかく　原野春艸しるす
誠信閣寿梓〔柱〕都々一百首〔序〕明治十七年の一月（一八八四）原野春艸〔刊年・等〕明治□四月　出版人　東京　近藤清太郎　発行書肆　横浜　尾崎富五郎等十六軒　序一　本文二十五丁
〔頭尾歌〕田地田黄「小田のかり庵にふくとまよりも荒いおまへの捨言葉」潤沢員「もゝしきやふるきぬのこをかさねぎしてもふゆのよ風はみにあまる」
〔備考〕一頁二首ずつ色紙型におさめ　下に絵をそえる

二九 **標註七種百人一首**　和活一冊　三・八×一五
〔著者〕佐佐木信綱〔序〕東久世通禧〔緒言〕明治廿六年一月十七日　佐々木信綱
〔刊年・等〕明治廿六年（一八九三）一月廿一日　東京博文館　百二十頁
〔内容〕「小倉百人一首　新百人一首　後撰百人一首　続百人一首　近世百人一首　源氏百人一首　修身百人一首」以上七種の百人一首に佐佐木信綱が標註を行つた　百人一首を数種集録刊本とした最初のもの

三〇 **征清百人一首**　かるた　六・三×四・二
加藤安彦「限りなき青海原をいくさふねいのちも軽くのせてゆくらん」の歌ほか　読札九十三枚　取札九十七枚〔刊年・等〕明治廿七年（一八九四）十二月　売捌所　東京　中西屋等四軒

三一 **都々連の帯**　和一冊　三・六×一五・六
〔別名〕都々連の帯百人一首〔撰者〕柳条亭一居〔序〕明治二十八年　藤原重浪
〔跋〕自跋〔刊年・等〕刊年未詳　明治二十八年（一八九五）刊（岸本）京都　八重垣社蔵　二十枚
〔頭尾歌〕天智天皇　持衣「秋の田のみのり祝ひて村々の踊りの袖も露にぬれつゝ」順徳院　彦丸「百敷や御庭に栄ふ橘の袖のかをりはむかしなりけり」
〔備考〕孫廼家彦丸十首　野路廼家持衣十四首　浮世亭苦楽九首　故有亭左力十八首花廼家春居十二首　有亭其可楽十二首　梦廼舎打々十五首　構檀舎二葉十首の計百首小倉百人一首の初句と五句をそのまゝにし二三四句を入れかえて作つた戯歌　各丁裏に絵を添える

三二 **さくら百首**　和一冊　一八・六×三
〔編者〕藤田徳次郎〔序〕中村良顕・桐園のあるし弾琴緒〔跋〕藤田悳しるす〔刊年・等〕明治三十年（一八九七）大阪市　藤田徳次郎　非売品　九丁
〔頭尾歌〕「我しめし庭のさくらのさきしより春日なかくもおもはさりけり　喜多子」「我宿のものにしあれとさくら花ちるはこころにまかせさりけり　悳」
〔備考〕桜の歌百首　喜多子等十人　各十首ずつよむ

三三 **十三種百人一首**　洋一冊　三・七×九・五
〔編者〕鈴木種次郎〔序〕明治四十三年六月　自序〔刊年・等〕明治四十三年（一九

一〇）十二月三十日　三版　東京　三教書院　巻首六頁　本文二五八頁
〔内容〕小倉百人一首・後撰百人一首・源氏百人一首・新百人一首・古今百人一首・新撰武家百人一首　列女百人一首・女百人一首・花街百人一首・畸人百人一首・狂歌百人一首・始物申どうれ百人一首・狂歌面迦計百人一首　巻首に十三種百人一首解題をのせる
〔備考〕袖珍文庫第二十三編に所収

三三四　**小長歌小倉百人一首歌もどき**　一冊　一九・三×一〇・五
〔著者〕吉池寛〔刊年・等〕大正七年（一九一八）十二月一日　青木大成堂東京出張所　一〇二頁
〔頭尾歌〕一天智天皇「穂波よせ　吹く風寒き　秋の田の　むら鳥追ひつ　刈穂もるかりほの庵の　苫をあらみ　漏る月影も明星の　そのきらめきも　うるほひて　我衣手は　露にぬれつゝ」壱百順徳院「百敷や　百世さかえし　大宮の　ふるき軒端のしのぶ草　見そなはしつゝ　四方の海　波も静かに　をさまりて　やすかりき世をしのぶにも　なほあまりある　むかしなりけり」
〔備考〕巻頭に緒言十二頁あり　そのうちに「此歌もどきは　一首ごとに百人一首の歌一首を　其本歌として　内に抱擁し　これに環点を附し　其五句を　或はわかち或はわかたず　適当のところに置き　これに我句八句を加へて十三句となし（中略）百人一首の百歌を歌もどきの百歌と詠みもどきたるなり」とある　著者は当時北米加洲王府在住　巻末に自詠の小長歌をおく

三三五　**川柳と百人一首**　洋一冊　一五・八×二・三
〔著者〕宮武外骨〔刊年・等〕大正十三年（一九二四）九月一日　東京　半狂堂　一一八頁
〔備考〕小倉百人一首とこれに関係した誹句・柳句・狂句を分類的に記述したもの　後に読律書屋（穂積重遠先生）所蔵「小倉百人一首類書目録」大正十二年十二月三十一日調「異種百人一首総目録」をのせる

三三六　**古今百人一句評釈**　洋一冊　一五×二
〔著者〕青木移山〔緒言〕大正十五年初夏　城西近衛町に於て著者しるす〔刊年・等〕大正十五年（一九二六）九月十五日　東京広文堂　二三二頁
〔頭尾句〕「元朝の見るものにせん富士の山　山崎宗鑑（天文二十二年歿文）」「さまゞくに暮れ行く年の一日かな　井上士郎（文化九年歿）」
〔備考〕古今に亘り　各流派や各時代を代表するやうな人々百人を撰び　各一句の評釈をした　春二十五句　夏二十五句　秋二十五句　冬二十五句　巻首に「評釈に入るに先立ちて」巻末に「さし柳」をのせる

三三七　**百人一首類聚目録**　第一輯　洋一冊　一八・八×二三・七
〔編者〕岸本稲巌〔序〕昭和三戊辰年三月桃の節句日識　自序〔刊年・等〕昭和三年（一九二八）四月三日印刷（非売品）大阪市　岸本稲巌　四十二頁
〔備考〕異種百人一首・小倉百人一首の目録

三三八　**井手百首**　和活一冊　三・四×一五・六
〔編者〕宮本邦之助〔序〕昭和九年三月　御歌所参候　栗山直扶しるす・同年春三月　洛西衣笠山麓　宮田和一郎識・同年甲戌年四月　井手の里人　宮本邦之助記〔刊年・等〕昭和九年（一九三四）六月二十五日　編纂兼発行者　宮本邦之助
〔頭尾歌〕題知らず　読人知らず「かはつなく井手の山吹ちりにけりはなのさかりにあはましものを（古今集春下）」古今六帖六山吹貫之「春の日はゆきもやられすかはつなく井手のわたりに駒をとゝめて　源重之集」
〔備考〕井手の玉川に関する歌百首を主として勅選集から選ぶ　実朝五首　俊成五首など二首以上の作者もある　中に「井手玉川の風景」写真一葉がある　扉裏に「京都府綴喜郡井手町宮本邦之助夫人紀子君より贈り給へり　与謝野寛　晶子」の朱書入れがある